

第92回

日本社会学会大会

第一日 2019年10月5日（土）

第二日 2019年10月6日（日）

——開催校——

東京女子大学 成蹊大学
(開催会場：東京女子大学キャンパス)

大会次第

日 時	研究発表等	総会・役員会等	会 場
10月4日(金) 11:00～13:00 13:00～17:00 17:30～19:30		三役打ち合わせ 理事会 拡大評議員会	本館2階021会議室 本館2階021会議室 本館2階021会議室
10月5日(土) 8:30～ 9:30～12:30 11:00～13:10 12:00～12:50 12:30～13:10 13:20～14:30 14:30～14:40 14:40～14:50 15:00～18:00 19:00～20:30	受付開始 一般研究報告(1) 一般研究報告(2)	社会学教育委員会 三役打ち合わせ 研究活動委員会 国際交流委員会 IJJS編集委員会 常任社会学評論編集委員会 倫理委員会 総会 法人設立集会 学会奨励賞表彰式 招待講演 懇親会	本館1階ロビー・0105教室 各教室 7号館2階7208教室 7号館2階7201教室 7号館2階7202教室 7号館2階7206教室 7号館2階7204教室 7号館2階7203教室 7号館2階7207教室 24号館2階24202教室 24号館2階24202教室 24号館2階24202教室 各教室 24号館2階24202教室 吉祥寺・東急REIホテル 宴会場「むさしの」
10月6日(日) 8:30～ 9:30～12:30 10:30～13:00 12:30～13:10 12:40～14:00 13:30～14:00 14:10～17:40	受付開始 一般研究報告(3) 国際交流委員会企画 テーマセッション ポスターセッション 日本社会学会 会長講演 シンポジウム1 シンポジウム2 シンポジウム3	拡大社会学評論編集委員会 シンポジウム1 打ち合わせ シンポジウム2 打ち合わせ シンポジウム3 打ち合わせ 研究情報支援委員会	本館1階ロビー・0105教室 各教室 6号館2階6215教室 7号館1階7102・7103教室 6号館1階6111教室 7号館2階7207教室 7号館2階7208教室 7号館2階7206教室 7号館2階7204教室 24号館2階24202教室 23号館2階23201教室 24号館2階24202教室 23号館1階23101教室

大会次第・備考

1. 大会参加費	一般会員 4,500 円	大学院生・学生会員	2,500 円
懇親会費	一般 6,000 円	大学院生・学生	3,000 円
当日参加費	一般会員 6,000 円	大学院生・学生会員	4,000 円
当日参加費	一般非会員 7,000 円	大学院生・学生非会員	5,000 円

今年度大会は、報告数が 430 を越えて第 90 回大会（2017 年、東京大学開催）に次ぐ規模となり、首都圏開催の大会であることから会員・非会員を含めた多数の来場が見込まれます。開催校の事情から受付スペースが狭隘なこともあり、とくに初日朝の受付でのたいへんな混雑が予想されるため、できるかぎり会員の皆さまに事前参加登録と参加費の事前納入を済ませていただくようお願いいたします。

参加登録締切は9月17日（火）正午です。クレジット決済を行う場合は9月17日（火）正午までに、銀行振込を行う場合は9月18日（水）までに入金を終えてください。また、本大会で研究報告をされる方は、報告申込要領でもお知らせいたしましたとおり、原則として9月13日（金）までに大会参加費を事前納入してください。本大会で研究報告をされる方は、報告申込要領でもお知らせいたしましたとおり、原則として9月13日（金）までに大会参加費を事前に納入してください。

2. 受付は本館1階ロビーと0105教室です。受付後、必ず名札をご着用くださいますようお願いいたします。大会の運営上、名札をご着用になっていない場合には会場係が確認をさせていただくことがあります。

3. 抜き刷り・報告資料交換コーナーを7号館1階7108教室に設置いたします。参加者は論文抜き刷りや報告資料の残部などを置くことができます。出版社などが書籍・雑誌を展示販売する書籍・雑誌コーナーは7号館1階7104・7106・7107教室に設置します。

4. 会員控室は11号館1階の小ホールです。クロークは設置いたしません。大会本部は本館1階0101室となります。

5. 大会開催校にて託児サービスが実施されております。託児スペースはセキュリティのため、利用者のみにお知らせいたします。利用に際しては、事前にお申し込みのうえ、受付でお申し出ください。申し込み方法の詳細は学会ホームページをご覧ください。

6. 東京女子大学キャンパスの北西側に位置する11号館カフェテリアにて、両日とも昼食の利用ができます（営業時間：11:00～14:00）。

・日本社会学会 大会情報ページ：https://jss-sociology.org/meeting/2019030892_1/4/

7. プログラムの修正・変更、報告要旨などについては学会ホームページの大会情報ページをご参照ください。

8. 大会開催校の連絡先

第92回大会実行委員会（委員長 金野美奈子）

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学現代教養学部 国際社会学科社会学専攻
konno@lab.twcu.ac.jp TEL 03-5382-6354/ FAX 03-5382-4924（社会学専攻オフィス）

※専攻オフィスは8月9日～21日まで夏季一斉休暇のため閉室します。

会場までの交通案内

大会会場は、東京女子大学キャンパスです。東京女子大学へのアクセスは、以下のホームページのご案内もあわせてご参照ください。

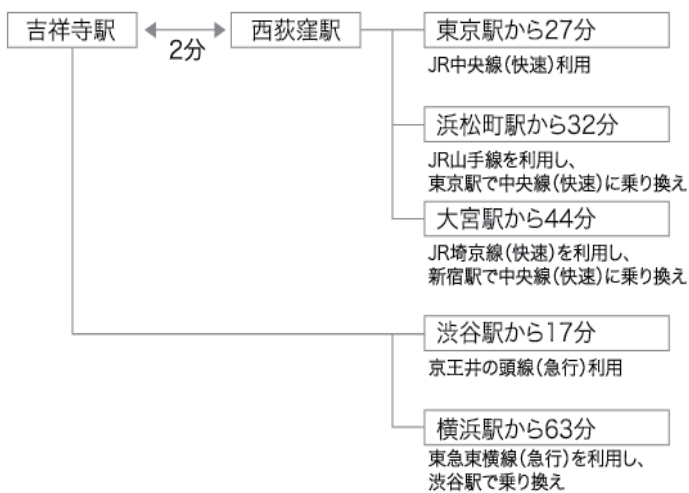
東京女子大学交通アクセス：<http://www.twcu.ac.jp/univ/access/>

English Site: <http://www.twcu.ac.jp/univ/english/about/access/>

【主な空港から最寄り駅までの経路】

- ・羽田空港→（東京モノレール）→浜松町（山手線）→新宿（中央線）→西荻窪
- ・成田空港→（京成特急スカイライナー）→日暮里（山手線）→新宿（中央線）→西荻窪

最寄り駅へのご案内(平日) ※所要時間はおよその目安です。



【最寄り駅からキャンパスまでの経路】

最寄り駅は、下記の「西荻窪駅」(推奨)、「吉祥寺駅」、「上石神井」駅の3つです。

①「西荻窪」駅（JR 中央線、JR 中央・総武線、東京メトロ東西線乗り入れ）から

- ・北口より徒歩 12 分

- ・北口（1 番のりば）より関東バス・西 10・吉祥寺駅北口行バスで「東京女子大前」下車すぐ

※ 中央特快、通勤快速、通勤特快は西荻窪駅には停車しません。

※ 土・日・祝日は中央線快速も西荻窪駅には停車しません。中央・総武線各駅停車または東京メトロ東西線乗り入れをご利用ください。

②「吉祥寺」駅（JR 中央線、JR 中央・総武線、京王井の頭線）から

- ・北口（3 番のりば）より関東バス・西 10・西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車すぐ

※ JR 中央特快、JR 通勤特快は吉祥寺駅には停車しません。

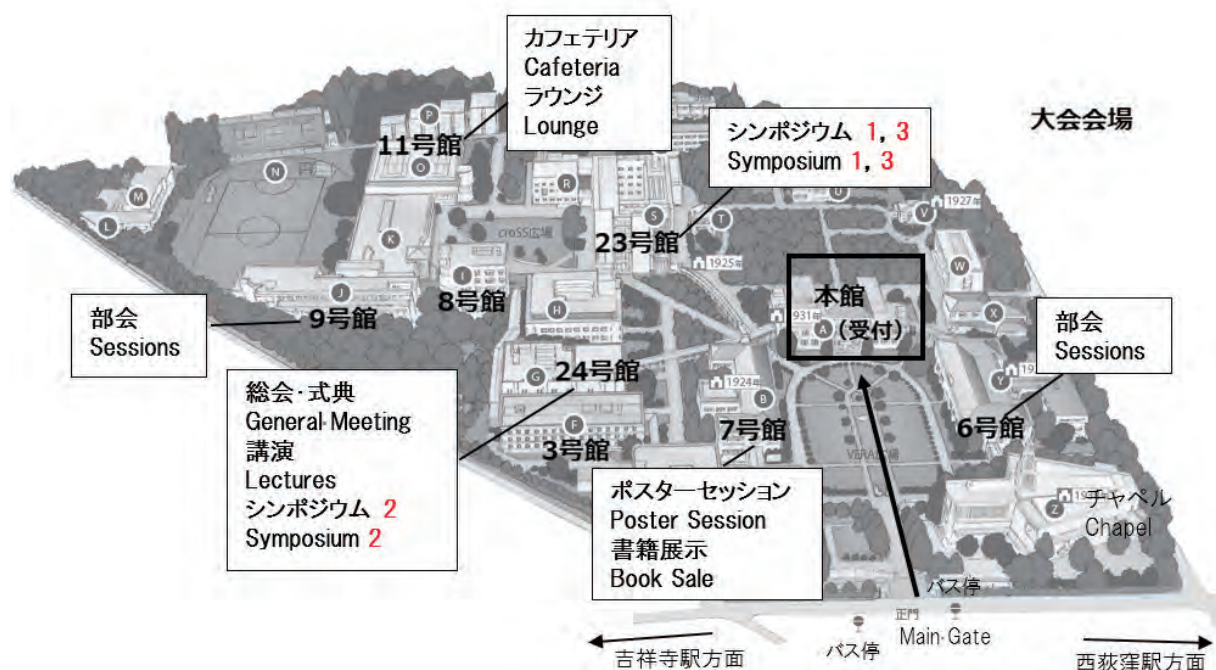
※ JR の場合、北口方面へは中央改札のご利用が最も便利です。

③「上石神井」駅（西武新宿線）から

- ・南口より関東バス・西 02・西荻窪駅行バスで「地蔵坂上」下車、徒歩 5 分



【キャンパスマップと大会会場】



懇親会会場 吉祥寺・東急 REI ホテル 宴会場「むさしの」

(JR 中央・総武線、東京メトロ東西線乗り入れ、京王井の頭線 吉祥寺駅公園口(南口) 徒歩 1 分)

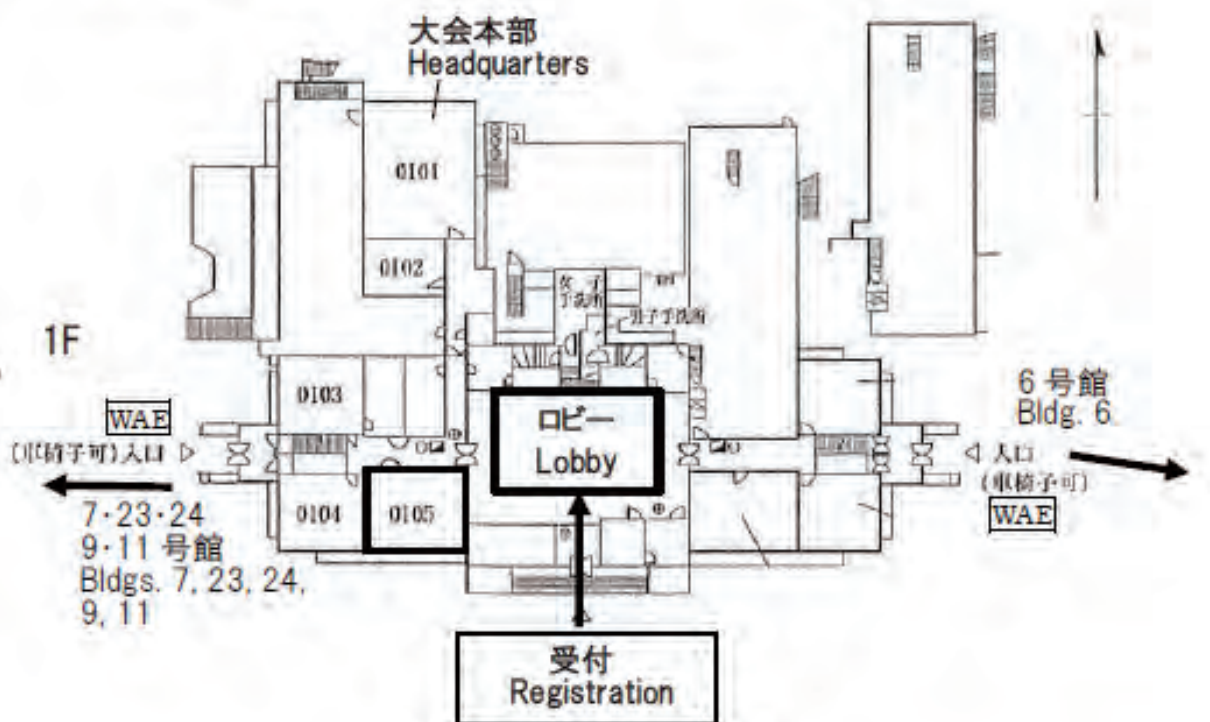
5 日午後の部会終了後、キャンパス正門より会場までの送迎バスがあります。

※第 1 便 18:15 出発予定。詳細は当日会場にてご案内します。

フロアマップ

本館

Main Building



WAE: Wheelchair Accessible Entrance

受付

Registration Desk

事前振込済みの方

For Pre-registered Participants

当日お支払いの方

On-site Registration

本館ロビー

Lobby, Main Bldg.

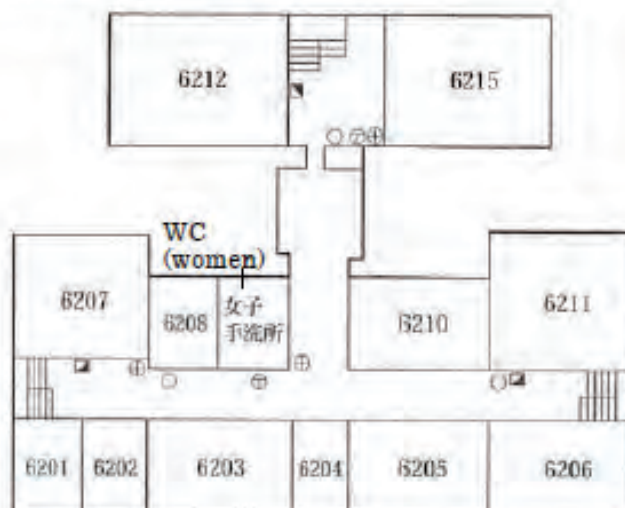
本館 0105 教室

Room 0105, Main Bldg.

6 号館

Building No.6

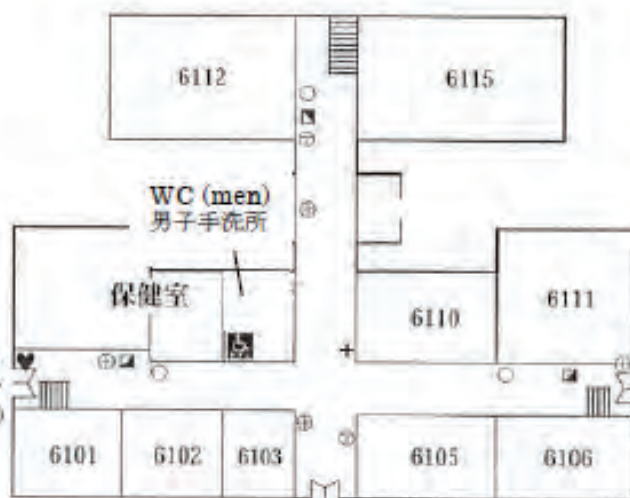
2F



部会
Sessions

※6 号館にはエレベータは
ございません。
※No elevator in bldg. 6

1F



部会
Sessions

本館
Main Bldg.

入口
(車椅子可)
WAE

WAE
入口

WAE: Wheelchair Accessible
Entrance

多目的トイレ
Multipurpose Lavatory

中庭(芝生)
Lawn/Courtyard

正門
Main Gate

23・24・9・11 号館
Bldgs. 23, 24, 9, 11

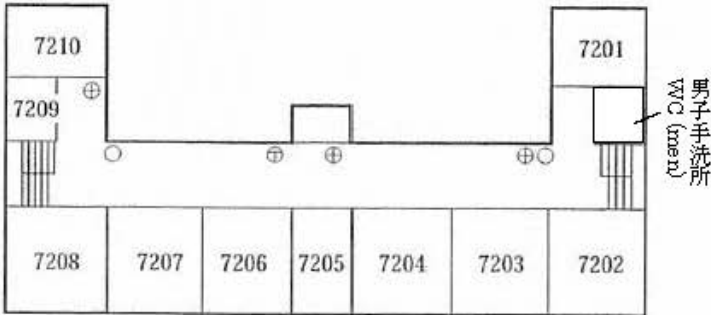
7 号館
Bldg. 7

7 号館

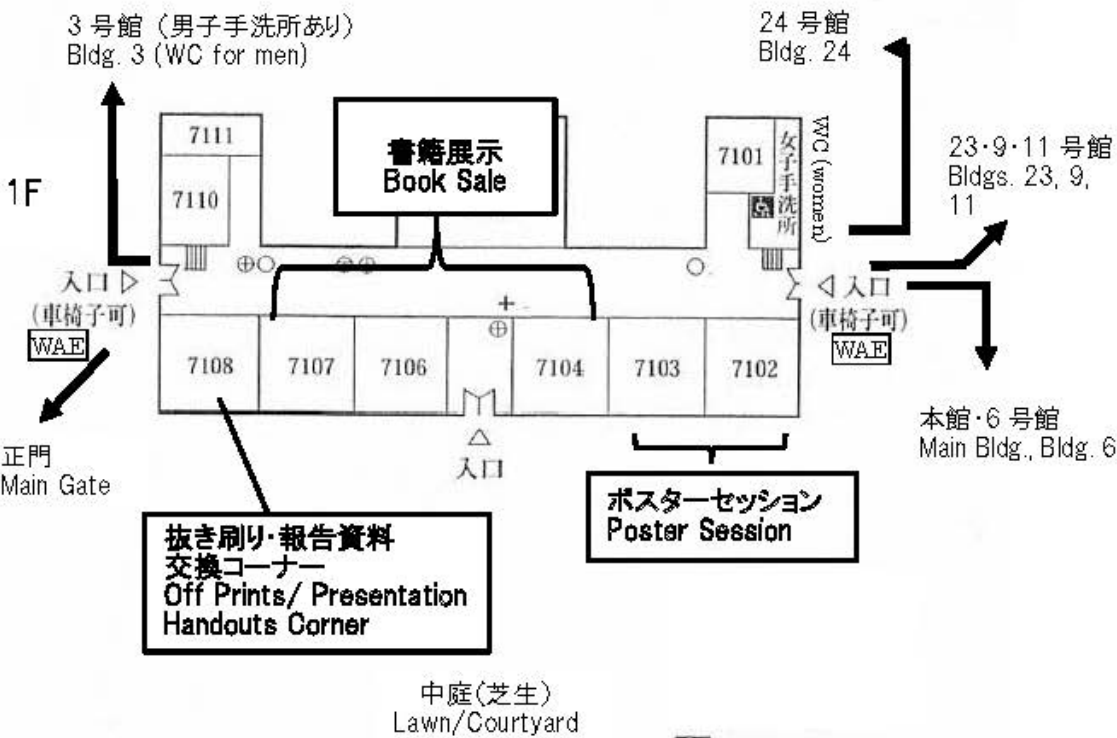
Building No.7



2F



1F



※7 号館にはエレベータは
ございません。
No elevator in bldg. 7

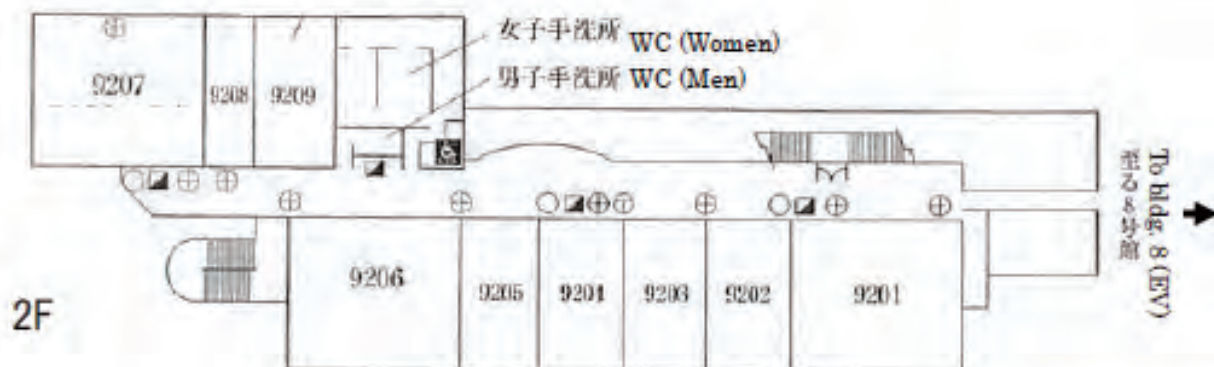
※3 号館男子手洗所も合わ
せてご利用ください。
Please also use WC for
men in adjacent bldg. 3.

6 号館
Bldg. 6

多目的トイレ
Multipurpose
Lavatory
WAE: Wheelchair Accessible
Entrance

9 号館

Building No.9



部会
Sessions



部会
Sessions

※8号館（直結）のエレベータもご利用ください。
An elevator is available in bldg. 8 (directly connected).

多目的トイレ
Multipurpose
Lavatory

WAE: Wheelchair
Accessible Entrance

11 号館

Building No.11

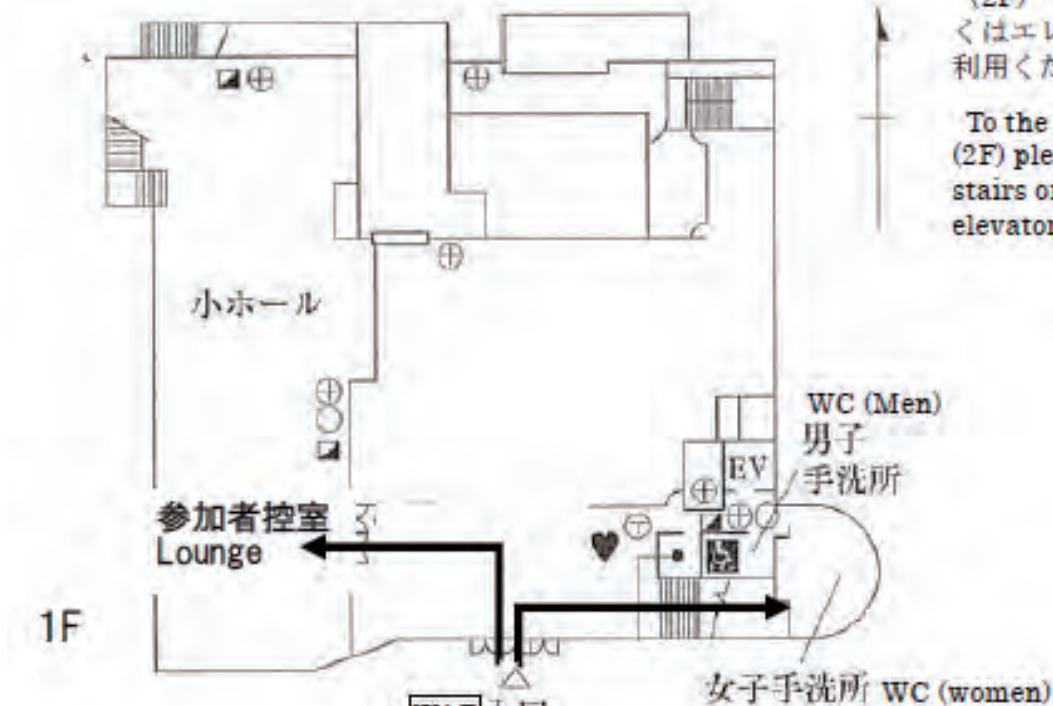


2F カフェテリア営業時間
5 日 (土), 6 日 (日)
11:00~14:00

2F Cafeteria
Hours 11:00-14:00
Saturday 5th
& Sunday 6th

1F 参加者控室は両日とも終日 (9:00~17:00) お使いいただけます。

Lounge (1F) is open
9:00-17:00, Saturday
5th & Sunday 6th.



※カフェテリア
(2F) へは階段もしくはエレベータをご利用ください。

To the cafeteria
(2F) please use the
stairs or the
elevator.

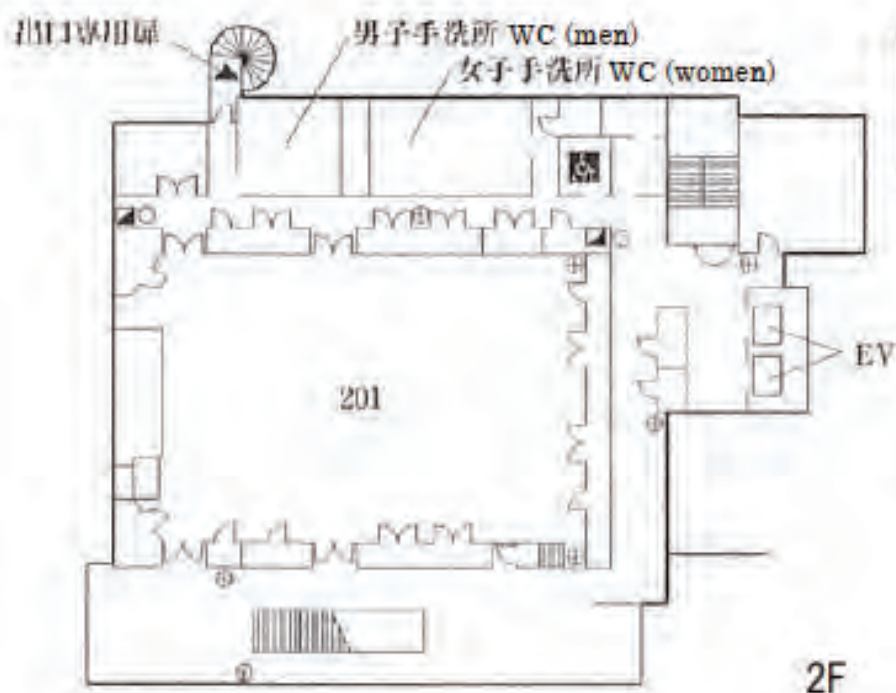
WAE 入口
(車椅子可)
↓
9 号館 Bldg. 9

23・24・7・6 号館
本館, 正門
Bldgs. 23, 24, 7, 6
Main Bldg.
Main Gate

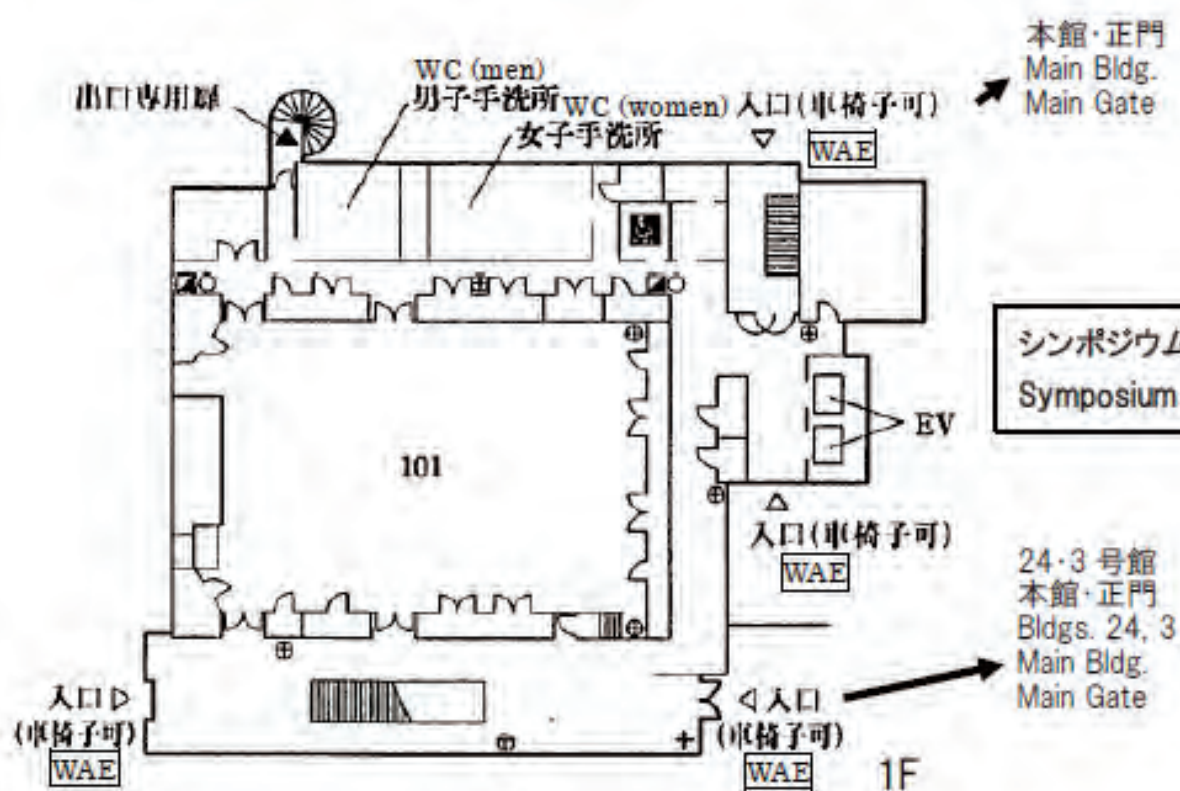
多目的トイレ
Multipurpose Lavatory
WAE: Wheelchair Accessible Entrance

23 号館

Building No.23



2F

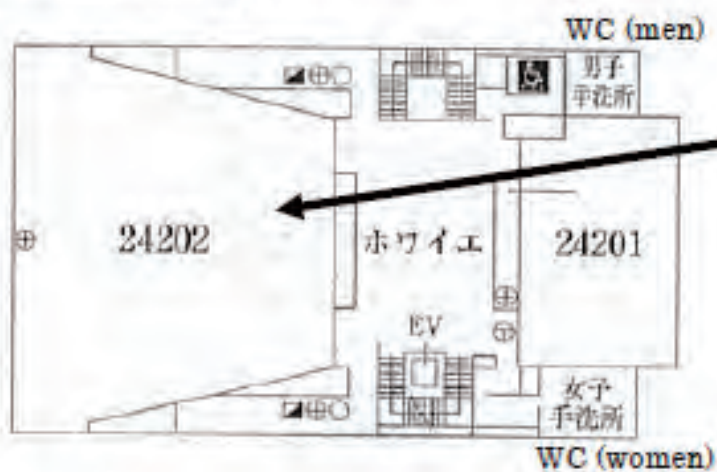


1F

多目的トイレ Multipurpose Lavatory
WAE: Wheelchair Accessible Entrance

24 号館

Building No.23



2F

5 日(土)

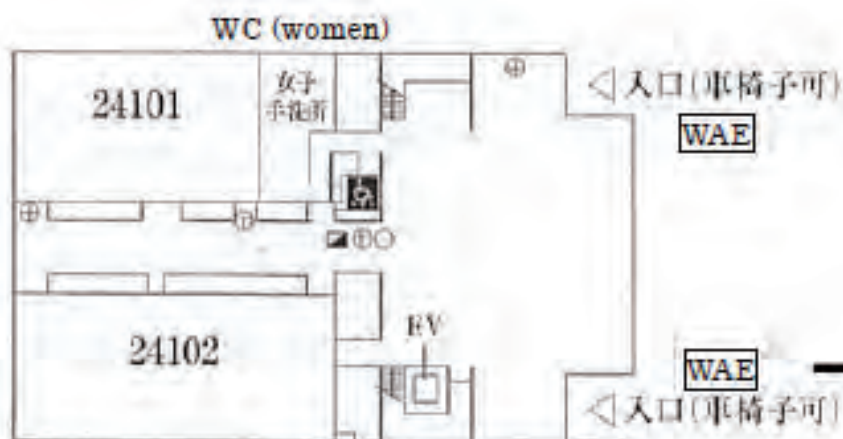
総会・式典
General Meeting/
Ceremony

受賞講演
Lecture Meeting

6 日(日)

会長講演
Presidential Address

シンポジウム 2
Symposium 2



1F

23・9・11 号館
Bldgs. 23, 9, 11

7 号館, 本館,
6 号館
Bldg. 7
Main Bldg.
Bldg. 6



3・7 号館, 正門
Bldgs. 3, 7
Main Gate

 多目的トイレ
Multipurpose
Lavatory

WAE: Wheelchair Accessible Entrance

研究報告を行う上での注意事項

1. 共通事項

- ・万が一報告をキャンセルする場合は、すみやかに学会事務局（jss@sociology.gr.jp）と大会本部（konno@lab.twcu.ac.jp）の両方に連絡してください。
- ・タイトルと報告内容は申込時のものから変更できません。
- ・部会終了時に配布資料が残った場合は、報告者が持ち帰ってください。7号館1階7108教室に設けられた「抜き刷り・報告資料交換コーナー」に置いて配布することもできます。
- ・大会会場における無断の撮影・録音行為はお控えください。
- ・開催校でのコピーサービスはありません。

2. 自由報告（一般研究報告Ⅰ）、テーマセッション（一般研究報告Ⅲ）での報告

- ・部会開始時間の5分前までに会場に集合して、司会者と打ちあわせをしてください。
- ・報告時間は各報告15分で、そのあとに質疑応答が数分あります。原則として、報告開始後10分で第一ベル、15分で第二ベルが鳴ります。
- ・配布するレジュメや資料のコピーは、報告時に最低50部、適宜余部を用意してください。追加資料を配布することもできます。残部は、途中参加者がとりやすい所に積むようにしてください。
- ・プロジェクタの利用をされる場合は、ご自身でパソコンをご持参ください。
- ・会場では、プロジェクタとパソコン接続用ケーブル（Mini D-Sub15ピン）を利用できます。Apple社製パソコンを使用する場合には、専用の変換アダプタも各自でお持ちください。
- ・DVDに関しては、パソコンで再生できるかたちでご準備下さい。
- ・部会開始15分前に会場にお越しいただき、接続・動作の確認など機器の準備をしてくださるようお願いいたします。また、機器に不具合はつきものですので、万が一に備えて、機器なしでも滞りなく発表できるようにご自身でご準備ください。
- ・特に、テーマセッション、研究チームでのご報告のような場合には、円滑な進行を図る意味でも、事前に報告者間で連絡調整をしてくださいますようお願いいたします。
- ・その他部会の進行については、司会者の指示にしたがってください。

3. ポスターセッション（一般研究報告Ⅱ）での報告

- ・ポスターセッションの会場は、7号館1階7102・7103教室です。
- ・部会開始時間の10分前までに会場に集合して、監督者と打ちあわせをしてください。
- ・ポスターの掲示スペースは、幅90cm、高さ120cm程度です（A0判が入ります）。
- ・ポスターの掲示場所は、プログラムに基づいて割りふられています。
- ・報告時間は2時間30分です。時間中は基本的にポスターの前にて、質疑応答を行ってください。やむを得ない事情でポスターから長時間離れる場合は、かならず監督者にその旨伝えてください。無断で長時間不在の場合、報告が取り止めとされることがあります。
- ・資料を配布することもできます（最低50部用意することを強く推奨します）。
- ・その他部会の進行については、監督者の指示にしたがってください。

部会一覧

教室番号	10月5日(土)		10月6日(日)
	9:30～12:30	15:00～18:00	9:30～12:30
	一般研究報告(1)	一般研究報告(2)	一般研究報告(3)
【6号館】 6105	教育	社会運動	
6106	福祉・保健・医療(1)	福祉・保健・医療(2)★	福祉・保健・医療(3)
6110	性・ジェンダー(1)	性・ジェンダー(2)	性・ジェンダー(4)★
6112	情報・コミュニケーション★	性・ジェンダー(3)	環境
6115	民族・エスニシティ(1)★	民族・エスニシティ(2)	民族・エスニシティ(4)★
6203	差別・マイノリティ)	民族・エスニシティ(3)	社会病理・逸脱
6205	歴史・社会史・生活史(1)	歴史・社会史・生活史(2)	国際・エリアスタディ
6206	理論	学史・学説	権力・政治
6207	階級・階層・移動(1)★	階級・階層・移動(2)★	階級・階層・移動(3)
6210	テーマセッション(1) 「ヒトと動物の「社会的共生」を構想する」	テーマセッション(6) 「デジタル時代の社会調査を考える」	テーマセッション(11) 「技術革新再考——社会学の理論的冒険」
6211	テーマセッション(2) 「ステレオタイプにおける社会学とマンガ研究」	テーマセッション(7) 「文化産業としてのアニメーション」	テーマセッション(12) 「創造性・芸術性と労働をめぐる社会学」
6212	テーマセッション(3) 「東アジアの軍事化と地域社会」	テーマセッション(8) 「現代社会における食と農」	テーマセッション(13) 「＜関係＞と＜プロセス＞の社会学の可能性」
6215	テーマセッション(4) 「「時間の社会学」の現代的展開」	テーマセッション(9) 「社会的包摂・社会的排除を考える社会学」	国際交流委員会企画テーマセッション "New Migration Trends in East and Southeast Asia"
【7号館】 7102			ポスターセッション1 (10:30～13:00)
7103			ポスターセッション2 (10:30～13:00)
【9号館】 9101	テーマセッション(5) 「ポスト・ブルデューの文化社会学」	テーマセッション(10) 「再帰的近代における宗教と社会・個人」	
9102	災害(1)	災害(2)	災害(3)
9103	文化・社会意識(1)★	文化・社会意識(2)	文化・社会意識(3)
9104	産業・労働・組織(1)★	産業・労働・組織(2)	産業・労働・組織(3)
9105	家族(1)	家族(2)	都市
9201	地域社会・地域問題(1)	地域社会・地域問題(2)	地域社会・地域問題(3)
9202	研究法・調査法(1)	研究法・調査法(2)	

★の部会は日英混成部会

研究報告題目

第一日（10月5日）

一般研究報告（1）（9時30分～12時30分）

教育

6105 教室

司会：元森絵里子（明治学院大学）

- | | | | |
|--|---------|-----|-----|
| 1 十九世紀ドイツ道徳統計学の自由意志論争——統計知とリベラリズムの統治との複雑な関係 | | 生間 | 元基 |
| 2 教育実践における科学的知識と科学的推論の学習過程——小学校理科の授業を例とした一考察 | 北星学園大学 | 水川 | 喜文 |
| 3 科学と技術の関係性は学習されるのか？——初等教育における理科実験を題材として | ○青森大学 | 中村 | 和生 |
| | 北星学園大学 | 水川 | 喜文 |
| | 北海学園大学 | 五十嵐 | 素子 |
| | 弘前大学 | 東 | 徹 |
| 4 「心の闇」の内容分析——三大全国紙を対象として | 和光大学 | 赤羽 | 由起夫 |
| 5 悪書追放運動における「母」——“子を守る母”が生み出す世論と「悪書」 | 日本学術振興会 | 大尾 | 侑子 |
| 6 学校安全は私たちに何を問いかけているのか？——「安全士（safety officer）」の創設という課題 | 岡山県立大学 | 池田 | 隆英 |

福祉・保健・医療（1）

6106 教室

司会：高野和良（九州大学）

- | | | | |
|---|---------|----|-----|
| 1 東京都多摩地域における障害者をめぐる地域活動の展開——障害児の親、地域住民、外部支援者に着目して | 一橋大学大学院 | 加藤 | 旭人 |
| 2 限界集落の社会福祉政策——長野県 A 村における予備的調査を通じて | 長野大学 | 矢野 | 亮 |
| 3 地域社会としての中国社区——Outsider Art のアクターネットワーク | | 石岡 | 亜希子 |
| 4 地域包括ケアにおける公私連携ケアに関する事例研究——川崎市の民間支援団体への聞き取り調査から | 東京通信大学 | 櫛原 | 克哉 |
| 5 秋田県内の保健業務における認知症施策の動向——専門職の活動に対して「予防」の視点がもたらす変化 | ○秋田大学 | 板倉 | 有紀 |
| | | 浅野 | 真理子 |
| | | 奥田 | 佑道 |
| | | 大田 | 秀隆 |
| 6 モンゴル伝統医療へのグローバリゼーションの影響——医療機関に勤務するモンゴル医師の語りから | 首都大学東京 | 包 | 曉蘭 |
| 7 介護保険の新しい総合事業とコミュニティソーシャルワーク——滋賀県守山市における学区社会福祉協議会の取り組み | 東海大学 | 高木 | 俊之 |
| 8 熊本地震における社会福祉法人による社会福祉法人への支援の実態と課題——熊本県福岡県老人福祉施設協議会加盟の全施設へのアンケート調査から | 九州大学 | 安立 | 清史 |

性・ジェンダー（1）

6110 教室

司会：加藤秀一（明治学院大学）

- 1 インターセクショナリティの視点で見る日本帝国体制下の戦時性暴力問題 (1)
——個別性と普遍性の間・中国の日本軍戦時性暴力被害女性の名乗り出と対
日訴訟 早稲田大学 熱田 敬子
- 2 インターセクショナリティの視点で見る日本帝国体制下の戦時性暴力問題 (2)
——環太平洋社会正義運動と脱植民地化 ～サンフランシスコ「力の柱」を例
に～ 明治大学大学院 河 庚希
- 3 インターセクショナリティの視点で見る日本帝国体制下の戦時性暴力問題 (3)
——歴史としての他者の痛みから、自分たちの生／性の問題へ 国立大学法人
一橋大学大学院 永山 聡子
- 4 インターセクショナリティの視点で見る日本帝国体制下の戦時性暴力問題 (4)
——語りが内包する多元的視点への注目・元満蒙開拓団の女性の事例から 京都大学 山本 めゆ
- 5 マレーシア人大学生のジェンダーをめぐる性格と役割についての意識の分析
——フォーカス・グループとマインマップを活用して 近畿大学 安達 智史
- 6 スウェーデンにおける SOGI に基づく差別へのとりくみ——平等オンブズマン
と性指向オンブズマン ○四国学院大学 大山 治彦
佛教大学 大束 貢生
京都大学 伊藤 公雄
関西大学 多賀 太
- 7 米国の職場における異性愛規範——若年層性的マイノリティのインタビュー
ウー調査から フロリダ州立大 上野 康司
- 8 タイの若者における性的志向・性行動の関連要因 早稲田大学 小島 宏

情報・コミュニケーション（日英混成部会）

6112 教室

司会：辻大介（大阪大学）

ファシリテーター：平尾桂子（上智大学）

- 1 Gender Roles in Television Commercials in Asia——A Comparison of Japan,
China, Taiwan, Korea, Thailand, and Singapore 京都産業大学 ボンサビタック
サンティ ピヤ
- 2 情報環境（アーキテクチャ）によるモノ化する時代の考察 首都大学東京 稲葉 年計
- 3 会話の開始に先立つ他者の注意の引き出し——地域の書道サークルにおける
相互行為を事例として ○東京大学 坂井 愛理
大学院
国立国会図書館 亀澤 明彦
東京大学大学院 中山 莉子
東京大学大学院 金 志勲
東京大学大学院 秋月 優里
東京大学大学院 楊 映雪
東京大学先端科学
技術研究センター 荻野 亮吾
東京大学高齢社会
総合研究機構 後藤 純
- 4 鉄道の衰退と移動の「アトラクション化」——日本地域鉄道の観光列車を事
例に 東京大学 安 ウン
ビョル
- 5 Social Media in the Las Vegas Shooting: The Social Structure of Discourse in
the Digital Public Sphere University of Toronto Anson Au
- 6 災害時にコミュニティ放送をより活かすための研究——南海トラフ巨大地震
影響域のコミュニティ FM 局に対する調査を通じて ○国立研究開発
法人 防災科学
技術研究所 三浦 伸也
国立研究開発法
人 防災科学技
術研究所 坪川 博彰

民族・エスニシティ（１）（日英混成部会）

6115 教室

司会：森千香子（一橋大学）

ファシリテーター：樽本英樹（早稲田大学）

- | | | | |
|--|------------------------------|-----------------|---------|
| 1 The Paradox of the Super-Overstaying Migrants: Critical Realist Causality in Human Mobility | Loughborough University | Joselito Ranara | Jimenez |
| 2 The new factors determining the migration direction: Emotional Comfort and Cultural Proximity": A study based on Uighurs living in Turkey. | Cankiri Karatekin University | Taner | Sabancı |
| 3 追放の歴史社会学に向けて——世紀転換期フランスを事例として | 東京大学大学院 | 柴田 | 温比古 |
| 4 現代フランスにおける宗教と病院——ライシテ研究の観点から | 東京大学大学院 | 田中 | 浩喜 |
| 5 移民家族におけるジェンダー関係の葛藤——在日フィリピン人男性に注目して | 中京大学 | 三浦 | 綾希子 |
| 6 アイヌ民族の「戦略」からみる同化と文化継承 | 北海道大学大学院 | 木戸 | 調 |
| 7 重国籍制度の比較社会学的考察に向けて | 早稲田大学 | 樽本 | 英樹 |

差別・マイノリティ

6203 教室

司会：山本崇記（静岡大学）

- | | | | |
|---|---------|-------|--------------|
| 1 分析枠組みとしての自己「物語」とは——困難な経験にアプローチするために | 東京学芸大学 | 水津 | 嘉克 |
| 2 ジェンダー・セクシュアリティ、障害、人種研究のマッピング——マイノリティ横断的研究に向けて | 東京大学大学院 | 二羽 | 泰子 |
| 3 当事者による食資源の分配の可能性——フードバンクかわさきの事例を中心に | 上智大学 | 堀部 | 三幸 |
| 4 エスニック・マイノリティの他者性をめぐる闘い——フランスの北アフリカ系移民二世のイスラーム教徒を事例として | 京都大学大学院 | 山下 | 泰幸 |
| 5 沖縄の「混血児問題」と「ハーフ」の社会史 | 大阪市立大学 | 下地 | ローレンス・泰樹（泰泳） |
| 6 本名か通称名か？——新聞報道における在日コリアンの名前表記をめぐる本質主義と社会構築主義 | 東洋大学 | 井沢（金） | |
| 7 アノミーによる暴力性の高揚と排外意識の研究——社会調査データの計量分析を通じて | 東北大学大学院 | 下窪 | 拓也 |
| 8 「ハーフ」の可視化と両義性——増殖するメディア実践と多様性の飼いならし | 大阪市立大学 | ケイン | 樹里安 |

歴史・社会史・生活史（1）

6205 教室

司会：小林多寿子（一橋大学）

- | | | | |
|--|-----------------|-----|------|
| 1 ドイツ統一と大学改革——ベルリン・フンボルト大学社会科学者が経験した
困難に関するライフヒストリー分析 | 愛知大学 | 飯島 | 幸子 |
| 2 社会的なものと人口をめぐる議論——社会政策における近代的人口論の位置
づけ | 法政大学大学院 | 山田 | 唐波里 |
| 3 統計基準の在り方をめぐる政治——戦後日本における統計改革の歴史社会学 | コロンビア大学
大学院 | ソン | ジュンウ |
| 4 インドシナ難民の定住者にとってのエスニック・コミュニティとの関係性と
その意義の変容 | 明治学院大学 | 長谷部 | 美佳 |
| 5 対日占領期におけるソ連の反米宣伝——『日本新聞』の描く米国像 | 創価大学・
八洲学園大学 | 宮川 | 真一 |
| 6 リプロダクティブ・ライツの剥奪——ハンセン病問題「本妙寺部落狩込み」「湯
之沢部落解散」再考 | 埼玉大学名誉教授 | 福岡 | 安則 |
| 7 ソーシャルワークの専門性と社会政策へ態度——1970年代日本における社会
福祉の専門性言説の分析から | 東京大学大学院 | 中野 | 航綺 |
| 8 戦後医学教育における献体運動の歴史——愛知「不老会」による「遺体献納」
の背景から | 中央大学大学院 | 鈴木 | 将平 |

理論

6206 教室

司会：浜日出夫（東京通信大学）

- | | | | |
|--|---------------|----|-----|
| 1 進化社会学におけるエージェンシー - 構造問題 | 日本女子大学 | 三原 | 武司 |
| 2 「記憶の場」に関するジャーナリズム論的分析の可能性と必要性 | 慶應義塾大学大
学院 | 佐藤 | 信吾 |
| 3 「身体」の諸相の探究——J. バトラーにおける身体の再帰性と可傷性の関係
に関する検討を通じて | 東京理科大学 | 長野 | 慎一 |
| 4 動機を飼いならす——組織成員の動機をめぐる個人化と脱個人化 | 東京大学大学院 | 樋口 | あゆみ |
| 5 「トランプ現象」の文化社会学——アレクサンダーらによる2016年のアメ
リカ大統領選挙の分析の検討から | 法政大学 | 兼子 | 論 |
| 6 社会運動論の方法論的拡充に向けて——ルーマン機能的システム理論導入の
試み | 私立横浜英和小
学校 | 東 | 武瑠 |
| 7 3.11後の原発回帰はいかにして可能になったのか——新しいリスクと責任追
及の逆説 | 日本学術振興会 | 井口 | 暁 |
| 8 プロフェッションと素人——ヒューズ・職業研究の可能性 | 熊本大学 | 中川 | 輝彦 |

階級・階層・移動（１）（日英混成部会）

6207 教室

司会：Hommerich Carola（北海道大学）

ファシリテーター：小林盾（成蹊大学）

- | | | |
|--|------------------------------|--------------------------|
| 1 「だってキャバ嬢って楽に稼げる仕事ですから」——キャバクラ嬢の階層戦略
のインタビュー・データ分析 | 成蹊大学 | 小林 盾 |
| 2 How Neoliberalism and Islamophobia shape schooling of Muslim minority
students in Sydney | Western Sydney University | Zainab Mourad |
| 3 Discrimination, Exclusion and Erasure: Islamic Dress in Lebanon under Colo-
niality. | University of Sussex | Ali Kassem |
| 4 New Forms of Discrimination? Re-examining the Online Discourses of Racial
Discrimination on Airbnb | Hong Kong Baptist University | Yao-Tai Li |
| 5 大卒者の増加と職業達成に対する学歴効果の変容——1965-2015 年 SSM 調
査データの分析 | 新潟大学 | 古田 和久 |
| 6 出身階層の影響力の継続性に関する検討——高齢層に着目して | 〇一橋大学
東京大学
近畿大学 | 麦山 亮太
白波瀬 佐和子
辻 竜平 |
| 7 父職と子職の大きなギャップが子の社会的地位評価に与える効果 | | |
| 8 Shaping Stances: Three Decades of Trends in Young People's Attitudes to-
wards Income Inequality and Redistribution | 京都大学大学院 | KITSNIK JOANNA |

テーマセッション（１）ヒトと動物の「社会的共生」を構想する

6210 教室

司会：徳田剛（大谷大学）

- | | | |
|--|-----------------|--------|
| 1 ペット介護の社会学——老犬老猫ホームにかかわる事例検討 | ヤマザキ動物看護大学 | 新島 典子 |
| 2 災害とコンパニオンアニマルの社会学——批判的実在論の災害研究への応用 | 立教大学
社会福祉研究所 | 梶原 はづき |
| 3 社会規範からみる飼育動物の取り扱いについての一考察——日本のクワガタ
ムシ飼育文化を事例として | 神戸大学大学院 | 小川 晃生 |
| 4 境界としての猫——動物とヒトとの共生を考えるために | 学習院大学 | 遠藤 薫 |
| 5 地域猫活動における〈三者協働〉の理念と現実——アクター間の関係性を中心に | 日本大学 | 木下 征彦 |
| 6 コミュニティ・ハブとしてのドッグパーク ——利用者対象の調査結果と対立
と交渉の経過の分析 | 麻布大学 | 大倉 健宏 |
| 7 野生動物との共生の社会的課題——キタキツネの餌付けから考える | 麻布大学 | 塚田 英晴 |

テーマセッション（２）ステレオタイプにおける社会学とマンガ研究

6211 教室

司会：小野塚佳代（京都造形芸術大学）

- | | | | |
|--|------------------|--------|-------------|
| 1 ステレオタイプとカートゥーン ——1894 年から 1905 年までの諷刺画を手
掛かりにして | 東京情報大学 | 茨木 | 正治 |
| 2 明治後期風刺漫画における「国民」・「人種」ヒエラルキーの構築——西洋風
刺漫画のステレオタイプとシンボルの分析を中心に | 大東文化大学 | Ronald | STEWART |
| 3 メキシコ漫画（イストリエタ）キャラクターの社会的考察——「アデリータ」
と「エル・サント」を中心に | 国際日本文化研
究センター | エルナンデス | アルバロ
ダビド |
| 4 マンガにおけるロボットのステレオタイプ——手塚治虫のロボット・キャラ
クターを中心に | 名古屋大学
大学院 | 孫 | 旻喬 |
| 5 被爆による奇形化とマンガ表現——石ノ森章太郎「サイボーグ 009」の描き
換えを軸として | 創価大学文学部 | 森下 | 達 |
| 6 永井豪におけるキリスト教異端というステレオタイプ ——黄泉の河を渡り古
典グノーシスのイメージをまさぐる | 椋山女学園大学 | 鎌田 | 大資 |
| 7 オンラインマンガにおける「現地化」 ——日本に翻訳される韓国マンガを事
例として | 東京大学 | 金 | イエジ |

テーマセッション（３）東アジアの軍事化と地域社会

6212 教室

司会：松田ヒロ子（神戸学院大学）

- | | | | |
|--|---|----|----|
| 1 境界領域における酪農開発と軍事基地化——北海道東部の矢臼別演習場の誘
致過程に着目して | 同志社大学 <small>＜奄美・沖縄・
琉球＞</small> 研究センター | 番匠 | 健一 |
| 2 大分県日出生台演習場における軍事化と地域社会 | 金沢大学 | 中島 | 弘二 |
| 3 首都圏における在日米軍基地をめぐる諸構造——厚木基地とその周辺を事例
として | ○神奈川工科大学 | 松下 | 優一 |
| | 日本大学 | 後藤 | 美緒 |
| | 東京都市大学 | 塚田 | 修一 |
| 4 軍事化と脱軍事化の相克——京都府京丹後市丹後町宇川における米軍基地建
設問題を事例に | 滋賀県立大学 | 大野 | 光明 |
| 5 戦後地域社会と国防——その結節点としての隊友会という存在 | 京都大学 | 津田 | 壮章 |
| 6 自衛隊広報のエンターテインメント化——フィールドワークで得られた知見
から | 筑紫女学園大学 | 須藤 | 遙子 |
| 7 「不安な兵士」のアイデンティティ構築——自衛隊と地域社会 | 一橋大学 | 佐藤 | 文香 |

テーマセッション（４）「時間の社会学」の現代的展開

6215 教室

司会：高橋頭也（立命館大学）

- | | | | |
|--|------------------|----|----|
| 1 時間の社会学を振り返る | 慶應義塾大学 | 鳥越 | 信吾 |
| 2 時間のメディアと形式——ニクラス・ルーマンのコミュニケーション・メディア論から考える社会的時間 | 日本学術振興会（京都大学大学院） | 梅村 | 麦生 |
| 3 時間を論じる視角としての空間——モーリス・アルヴァックスの集合的記憶論を中心に | 関西大学 | 金 | 瑛 |
| 4 見田社会学の理論構造における時間的契機と社会的契機——「時間の社会学」から「社会学の時間性」へ | 神戸大学大学院 | 徳宮 | 俊貴 |
| 5 進歩の観念の変容と社会科学者の社会の時間——社会は捉えられなくとも、社会の変化は語らねばならない | 首都大学東京大学院 | 吉田 | 耕平 |
| 6 「時間の社会学」に基づく元号の再検討——時代区分論を参照して | 東洋大学 | 鈴木 | 洋仁 |
| 7 都市における未来の戦争災害の社会的な予期——ニューヨークの民間防衛を事例として | 筑波大学 | 木村 | 豊 |

テーマセッション（５）ポスト・ブルデューの文化社会学

9101 教室

司会：川崎賢一（駒澤大学）

- | | | | |
|---|--------|----|----|
| 1 カングレムの規範概念としてのハビトゥス——戦後フランス知識界におけるカンギレム - ブルデュー関係の意味にふれつつ | 東洋大学 | 櫻本 | 陽一 |
| 2 地域移動と文化実践との関係性——「文化と意識に関する全国調査」の分析をととして | 明星大学 | 小股 | 遼 |
| 3 現代社会における食の実践——ブルデューの食の文化社会学をめぐって | 島根県立大学 | 村井 | 重樹 |
| 4 「空間テイスト」による生活様式空間の再構成 | 駒澤大学 | 片岡 | 栄美 |

災害（１）

9102 教室

司会：佐久間政広（東北学院大学）

- | | | | |
|---|-----------------|-----------|-----------|
| 1 災害復興の地域的最適解に関する総合的研究 ①——東日本大震災 10 年の軌跡と地域的最適解の探究をめぐって | 早稲田大学 | 浦野 | 正樹 |
| 2 災害復興の地域的最適解に関する総合的研究②——リアス式海岸エリアの津波被災地域における復興過程と課題 | 早稲田大学 | 野坂 | 真 |
| 3 災害復興の地域的最適解に関する総合的研究③——移転がコミュニティの復興にもたらした影響 | 名古屋大学 | 室井 | 研二 |
| 4 災害復興の地域的最適解に関する総合的研究④——原発事故被災地域における復興の特徴と課題 | ○東洋大学
尚絅学院大学 | 川副
高木 | 早央里
竜輔 |
| 5 災害復興の地域的最適解に関する総合的研究⑤ なぜ災害復興に国際的視野が必要なのか——災害大国の陥穽としての単線的復興に対峙して | 専修大学 | 大矢根 | 淳 |
| 6 災害復興の地域的最適解に関する総合的研究⑥：なぜ災害復興に国際的視野が必要なのか——災害大国の陥穽としての単線的復興に対峙して | ○明治大学
専修大学 | 小林
大矢根 | 秀行
淳 |
| 7 復興を社会学からどう研究するか——東日本大震災の復興に関する研究のための予備的考察 | 尚絅学院大学 | 田中 | 重好 |

文化・社会意識（１）（日英混成部会）

9103 教室

司会：西山哲郎（関西大学）

ファシリテーター：富永京子（立命館大学）

- | | | | |
|---|----------------|--------|---------|
| 1 「ミステリ場」の構造分析 ——新本格ムーヴメントを中心に | 法政大学大学院 | 山口 | 敬大 |
| 2 2次元アイドルファンの活動実践についての考察——ぬいぐるみ等のグッズ
を利用した写真撮影を事例として | 早稲田大学大学院 | 清水 | 暁子 |
| 3 成員カテゴリー分析の視点で捉える「ファン」——ファンの日常活動と会話
から | 国立大学法人
埼玉大学 | 袁 | 景竜 |
| 4 音楽活動のなかのマルチ・モダリティ——演奏をつうじた説明可能性の編成 | 慶應義塾大学 | 吉川 | 侑輝 |
| 5 外国の研究者として調査を行うことの効果——フランスにおける子どもの芸
術文化活動の参与観察から考える | 南山大学 | 小林 | 純子 |
| 6 Looking at lifestyle and cultural-oriented migration from West to East: The
case of Western potters in Japan | 首都大学東京 | Morais | Liliana |

産業・労働・組織（１）（日英混成部会）

9104 教室

司会：高橋康二（労働政策研究・研修機構）

ファシリテーター：コー・ダイアナ（法政大学）

- | | | | |
|--|---------------------------------|-------|----------------------|
| 1 What is the impact of late career transitions on workers' health in Japan?——
A longitudinal perspective using JSTAR-RIETI. | Universié libre
de Bruxelles | WELS | JACQUES |
| 2 The Effects of Ambiguous Position of Dispatched Workers on Relation and
Work Practices between Dispatched and Regular Workers in Office | 東京大学 | 澁谷 | 美和 |
| 3 技能実習制度における技能移転の可能性と限界——インドネシア人技能実習
生の事例 | 一橋大学大学院 | Waode | Hanifah
Istiqomah |
| 4 職場で発揮されるスキルは仕事の価値をどのように構成するか——人的資本
理論・スキル・仕事の質 | 東京大学大学院 | 鈴木 | 恭子 |
| 5 育児休業復帰面談における権力作用——「不安」が利用されるとき | 埼玉学園大学 | 杉浦 | 浩美 |
| 6 ケアリング・デモクラシーの構築に向けて——日米の保育運動の比較から | 下関市立大学 | 萩原 | 久美子 |

家族（１）

9105 教室

司会：米村千代（千葉大学）

- | | | | |
|---|---------------|-----|-----|
| 1 非親族による子育てのサポートの獲得と維持——90年代におけるシェア居住
の事例から | 兵庫教育大学大
学院 | 永田 | 夏来 |
| 2 20世紀日本における家族の「親密性」をめぐる解釈の変容 ——読売新聞「人
生案内」の語りから | 日本女子大学 | 野田 | 潤 |
| 3 家庭内ケア役割を果たす子どもと若者の不可視性 | 成蹊大学 | 松崎 | 実穂 |
| 4 「親になること／親にすること」をめぐる政治——後期近代における代理出産
と身体 | 九州大学 | 藤田 | 智子 |
| 5 友縁結婚した人々 | 四日市大学 | 三田 | 泰雅 |
| 6 2005年以降の日本の出生動向——置換水準回復の可能性？ | 札幌市立大学 | 原 | 俊彦 |
| 7 脱施設化と家族——相模原障害者施設殺傷事件のその後をめぐって | 金沢大学 | 高橋 | 涼子 |
| 8 日本の人口高齢化——社会階層論からの検討 | 東京大学 | 白波瀬 | 佐和子 |

地域社会・地域問題（1）

9201 教室

司会：越智正樹（琉球大学）

- | | | | |
|---|---------|--------|------|
| 1 鉄道会社の旅客誘致と社会集団——戦前の奈良におけるツーリズムの拡大過程を事例に | 慶應義塾大学 | 菅沼 | 明正 |
| 2 限界集落におけるライフスタイル移住者の生活戦略——東日本大震災以降の山口県上関町祝島への移住者たちを事例として | 滋賀県立大学 | 武田 | 俊輔 |
| 3 地域観光の可能性と課題 ——タイ国・メイカンポン村のコミュニティ・ベース・ツーリズム研究 | 椋山女学園大学 | 米田 | 公則 |
| 4 自衛隊基地と地域社会——奄美大島への陸上自衛隊配備をめぐる | 相愛大学 | 藤谷 | 忠昭 |
| 5 高齢期の生活と地域の共同性——宮古島市の住民組織調査から | | 杉本 | 久未子 |
| 6 地元就職志向をもたらし要因としての結束型社会関係資本——沖縄県における大学生の就職活動の事例から | 中央大学 | JAMBOR | ADAM |
| 7 沖縄本島下におけるハンセン病と結核をめぐるネクサスについて ——沖縄本島下のハンセン病患者・結核病患者にとっての「アメリカ世」 | 山口県立大学 | 中村 | 文哉 |
| 8 対社会自己有用感の規定要因は何か——川崎市地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査より | 東京大学 | 井口 | 尚樹 |

研究法・調査法（1）

9202 教室

司会：前田忠彦（情報・システム研究機構 統計数理研究所）

- | | | | |
|--|------------------|----------|----------|
| 1 高等教育研究における研究方法と大学教員の職務 | 嘉悦大学 経営
経済研究所 | 宇田川 | 拓雄 |
| 2 親子パネル調査（JLSCP2015-2018）のサンプル脱落の実態とその特徴 | ベネッセ教育総
合研究所 | 岡部 | 悟志 |
| 3 「日本人の国民性調査」をめぐる理論的考察と方法論的検討——「宗教意識」に関する質問諸項目に焦点を合わせて | 統計数理研究所 | 真鍋 | 一史 |
| 4 項目無回答比率の属性による違い——紛争経験調査（2017）データによる分析 | お茶の水女子大学 | 杉野 | 勇 |
| 5 11-18 歳時試験についての比較社会学的考察はどのようにしたらよいか——タイ・イングランド・日本 | 日本女子大学 | 尾中 | 文哉 |
| 6 社会調査において無効回答選択肢を含めることの影響 | ○奈良大学
奈良大学 | 吉村
正司 | 治正
哲朗 |
| 7 データベースを作成して雑誌分析をする際の手法の比較——テキストマイニングと量的内容分析 | 東京大学大学院 | 塩谷 | 昌之 |

第一日（10月5日）
一般研究報告（2）（15時00分～18時00分）

社会運動

6105 教室

司会：栗田宣義（甲南大学）

- | | | | |
|--|----------------------|----------|----------|
| 1 戦後労働者の演劇運動と討論の場 | 公益財団法人日本近代文学館 | 長島 | 祐基 |
| 2 “女性ユニオン”の先駆的組織の運動史的文脈を問う——1987年・大阪・“女
たちだけの労働組合” | 大阪大学大学院 | 牧野 | 良成 |
| 3 「普通の人」はいかにして社会貢献活動に参画するのか——社会課題解決を目
指したスポーツイベント運営のアクションリサーチ | 日本学術振興会
(一橋大学大学院) | 糸数 | 温子 |
| 4 占拠しあう街とアート——フランス・ナント市 Le Voyage à Nantes を事例に | ○立教大学
九州大学 | 越智
川崎 | 郁乃
修良 |
| 5 社会調査の倫理と「調査（者）を利用しようとする被調査者」問題——オウ
ム真理教とアカデミシヤンの関係を事例に | 上越教育大学 | 塚田 | 穂高 |
| 6 モビリティーズ研究におけるオートエスノグラフィー——「実証」の再定義
をめぐる | ICU 社会科学研究所 | 根岸 | 海馬 |

福祉・保健・医療（2）（日英混成部会）

6105 教室

司会：松繁卓哉（国立保健医療科学院）

ファシリテーター：細田満和子（星槎大学）

- | | | | |
|---|---|----------|----------|
| 1 Trends and Challenges of Migrant Nurses in Japan——Some Indications from
Canada and Australia | 星槎大学 | 細田 | 満和子 |
| 2 Effect of Social Welfare Program for Health Promotion on Cardiovascular Risk
Factors and depressive symptoms introducing non-clinical interventions. | Shah Abdul Latif
University Khairpur | Mour | Khan |
| 3 難治性疾患当事者団体にとって臨床試験とは何か——HTLV-1 関連疾患当事者
へのインタビュー調査より | 山口大学 | 桑畑 | 洋一郎 |
| 4 宮古南静園退所者のライフストーリーから「宮古方式」の意義を問い直す | 松山大学 | 山田 | 富秋 |
| 5 初期日本栄養学における「道德」——医学博士・佐伯矩の著書『栄養』（1926）から | 筑波大学大学院 | 佐藤 | 知菜 |
| 6 過剰診断論——AI に支援された医学検査がもたらすもの | 神戸市看護大学 | 檜田 | 美雄 |
| 7 制度的不正義からみたダブルケア負担・責任の配分——福祉政策と当事者の
交渉過程に関する日韓事例分析から | ○横浜国立大学 | 相馬 | 直子 |
| 8 非発症保因者であることを告知しないという選択 | 英国ブリストル大学
東京大学 | 山下
木矢 | 順子
幸孝 |

性・ジェンダー（2）

6106 教室

司会：千田有紀（武蔵大学）

- | | | |
|---|----------|--------------|
| 1 出生前診断における夫の選択——育児に積極的にかかわっている男性へのインタビュー調査から | 岡山大学 大学院 | 齋藤 圭介 |
| 2 男性のリプロダクティブ・ライツ試論——障がいのある子どもの父親へのインタビュー調査から | 立教大学 | 菅野 摂子 |
| 3 男性性とケア行動——東アジア 5 都市の比較から | お茶の水女子大学 | 石井 クンツ
昌子 |
| 4 ジェンダー権力構造におけるペドファイル男性の位置づけ | 愛知大学 | 湯川 やよい |
| 5 基地引き取り運動は性暴力も引き取るのか——批判への応答 | 九州大学 | 里村 和歌子 |
| 6 イギリスの大学のハラスメント対策におけるボランティア活動の拡大とその視点——助言と仲裁の活動実践に着目して | 首都大学東京 | 川畑 智子 |
| 7 体育祭のダンスにおける異性愛の構築 | 明治学院大学 | 合場 敬子 |
| 8 「自然なお産」の誕生——『助産雑誌』の事例から | 立教大学 | 橋迫 瑞穂 |

性・ジェンダー（3）

6112 教室

司会：守如子（関西大学）

- | | | |
|---|---------|--------|
| 1 「妻たちの花柳病」問題における女医の役割——竹内茂代による「花柳病二関スル請願」（1939）を中心に | 筑波大学 | 目黒 茜 |
| 2 トランスナショナル・フェミニズムという視座 | 大阪大学大学院 | 近藤 凜太郎 |
| 3 同窓会に関わること——卒業後の男女別学経験のライフヒストリー的検討 | 一橋大学大学院 | 徳安 慧一 |
| 4 シングルの女性農業者におけるライフコース選択——青森県の事例から | 千葉大学大学院 | 長船 亜紀子 |
| 5 女性向けボルノグラフィ研究における「性的主体化の装置」概念の可能性——第三波フェミニズムの視点から | 東京大学大学院 | 服部 恵典 |
| 6 ジェンダー化される留学とキャリアの研究——英語学習のために短期留学を行った日本人大学生の語りの分析ならびに日本人大学生への量的調査をもとに | 大阪大学大学院 | 北野 知佳 |
| 7 「母である私」として政治に参加するとは——「安保関連法に反対するママの会」参加者のインタビューを通して | 大阪大学大学院 | 元橋 利恵 |

民族・エスニシティ（2）

6115 教室

司会：石井由香（静岡県立大学）

- | | | |
|--|------------------|--------|
| 1 外国籍者の職業的地位達成——在日外国人の社会統合に関する研究（1） | ○東北大学 | 永吉 希久子 |
| 2 移民の教育達成と賃金——在日外国人の社会統合に関する研究（2） | Brown University | 木原 盾 |
| 3 在日外国人の社会的孤立とメンタルヘルス——在日外国人の社会統合に関する研究（3） | 慶應義塾大学 | 竹ノ下 弘久 |
| 4 移民の心理的統合——在日外国人の社会統合に関する研究（4） | 関西学院大学 | 長松 奈美江 |
| 5 郊外団地における外国人住民の社会統合についての研究（1）——神奈川県 X 団地の外国人住民の編入を事例として | 立教大学 | 五十嵐 彰 |
| 6 郊外団地における外国人住民の社会統合についての研究（2）——移動経験にもとづく生活戦術からの考察 | 横浜市立大学 | 坪谷 美欧子 |
| 7 郊外団地における外国人住民の社会統合についての研究（3）——自治会役員を務める外国人住民の意識の考察 | 上智大学大学院 | 伊吹 唯 |
| | ○横浜市立大学大学院 | 中澤 英利子 |
| | 横浜市立大学 | 坪谷 美欧子 |

民族・エスニシティ（3）

6203 教室

司会：是川夕（国立社会保障・人口問題研究所）

- | | | | |
|--|-----------------|-----|-----|
| 1 日本における移民の編入様式 1980-2015——(1) 進学格差の変遷と分岐 | 徳島大学 | 樋口 | 直人 |
| 2 日本における移民の編入様式 1980-2015——(2) ジェンダーからみる就業の変化 | 大阪大学 | 高谷 | 幸 |
| 3 日本における移民の編入様式 1985-2015——(3) 貧困問題からの検討 | 上智大学 | 稲葉 | 奈々子 |
| 4 サンフランシスコ・ベイエリアにおける移民の子どもへの教育——公立学校における「英語学習者」に対する教育に着目して | 文京学院大学 | 小林 | 宏美 |
| 5 ニューカマー児童を包摂する学校づくりについての検討——ブラジル人児童を取り巻く状況と課題 | 北陸学院大学 | 俵 | 希實 |
| 6 中国系ニューカマー第二世代の学業達成上の可視化されにくい障壁——地方の外国人非集住地域と都市部の比較から | 慶應義塾大学 | 吉川 | 春香 |
| 7 移民第二世代と進路選択——日本で育つ若者たちの進路選択の意味づけに着目して | 一橋大学大学院・日本学術振興会 | 山野上 | 麻衣 |
| 8 複数の国籍を保持することに関する Web 調査 | 青森公立大学 | 佐々木 | てる |

歴史・社会史・生活史（2）

6205 教室

司会：祐成保志（東京大学）

- | | | | |
|--|---------|----|-----|
| 1 戦争とアスリート——ボクサー、ピストン堀口の活動を事例として | 相模女子大学 | 木本 | 玲一 |
| 2 20 世紀前期における実業青年の進路動向——旧制彦根高等商業学校生における就職と転職 | 滋賀大学大学院 | 今井 | 綾乃 |
| 3 言説資源としてのミルズ大衆社会論と「脱領域的な労働者文学」——久保田正文の言説に注目して | 筑波大学大学院 | 野上 | 亮 |
| 4 コミュニティへの映像の沈着——魚沼市のガラス乾板を事例として | 新潟大学 | 原田 | 健一 |
| 5 「子どもの誕生」再考 (4)——子どもの構築論の更新に向けて | ○明治学院大学 | 元森 | 絵里子 |
| | 新潟県立大学 | 高橋 | 靖幸 |
| | 徳島大学 | 土屋 | 敦 |
| 6 原爆被爆者の「思い」を伝えることの意味に関する検討——聞き取り調査の結果と A. シュッツの「他者理解」を手がかりに | 武蔵大学 | 徳久 | 美生子 |
| 7 1980 年代から 2000 年代におけるサラリーマン雑誌の機能——『BIG tomorrow』読者投稿欄の分析を中心に | 慶應義塾大学 | 谷原 | 吏 |
| 8 新宗教と批判報道——1950 年代から 60 年代における立正佼成会、創価学会の事例から | 上智大学 | 栗津 | 賢太 |

学史・学説

6206 教室

司会：小川伸彦（奈良女子大学）

- | | | | |
|---|-------------|----|----|
| 1 The Nature of Unintended Consequence in Max Weber's thesis on Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism | 北海道大学 | 橋本 | 努 |
| 2 ディエス・デル・コラル著『新世界から旧世界へ』第 2 部「アジア」、とりわけ瀬戸内海方面の実証的検証——小島威彦の直筆メモを参照にして | 日本大学 | 小山 | 義博 |
| 3 大河内一男の社会学批判 | 無所属 | 田中 | 良一 |
| 4 大衆社会論再考——個人主義の思想史に着目して | 東京大学 | 魚住 | 知広 |
| 5 社会学者が批評を書くこと——新明正道と小林秀雄の論争より | 立命館大学大学院 | 寺前 | 晏治 |
| 6 冷戦期におけるデュボイスの反戦活動とアメリカ政府による思想統制 | 東海大学 | 本田 | 量久 |
| 7 批判理論 (T.Adorno) と新実在論 (M.Gabriel) の〈対自然〉の類似性についての比較検討 | 立命館アジア太平洋大学 | 清家 | 久美 |
| 8 グローバル社会学の方法と課題——グローバリゼーションと社会変動 | 早稲田大学 | 太田 | 有子 |

階級・階層・移動（２）（日英混成部会）

6207 教室

司会：辻竜平（近畿大学）

ファシリテーター：石田浩（東京大学）

- | | | | |
|---|-----------------------|----------|--------|
| 1 所得格差の受容と正当化に関する日米韓比較研究（１）——調査設計および適正所得の規定要因 | 静岡大学 | 吉田 | 崇 |
| 2 所得格差の受容と正当化に関する日米韓比較研究（２）——雇用システムの制度的特徴と仕事意識 | 東北学院大学 | 神林 | 博史 |
| 3 所得格差の受容と正当化に関する日米韓比較研究（３）——不利な立場にある人々による格差の過剰受容 | 東京大学 | 有田 | 伸 |
| 4 The Mechanism Underlying Entrance into Family Employment in Japan——Using the SSM Survey Data of 2005 and 2015 | 大阪大学 | 平尾 | 一朗 |
| 5 階層帰属意識への、遺伝子一塩基多型 rs53576 の無視しがたい統制変数効果・「ツイッター遺伝子」の発見？ | ○鹿児島大学 | 桜井 | 芳生 |
| | 鹿児島大学遺伝子実験施設 | 西谷 | 篤 |
| | 東京大学 | 赤川 | 学 |
| | 奈良大学 | 尾上 | 正人 |
| | 鹿児島大学医歯学研究科 | 安宅 | 弘司 |
| 6 Social inequality and contemporary world- A paradigm shift | Imo State Polytechnic | Jonathan | Egesi |
| | Umuagwo-Ohaji | | |
| 7 Fathers' use of family public policies in Japan and Quebec Province | University Laval | Valerie | Harvey |

テーマセッション（６）デジタル時代の社会調査を考える

6210 教室

司会：常松淳（日本大学）

- | | | | |
|--|---------|----|----|
| 1 計算社会科学は因果メカニズムの解明に役立ちうるか——M.サルガニック『ビット・バイ・ビット』での議論をめぐって | 東北大学大学院 | 瀧川 | 裕貴 |
| 2 デジタルフィールド実験は因果メカニズムの解明に役立ちうるか——M.サルガニック『ビット・バイ・ビット』での議論をめぐって | 青山学院大学 | 大林 | 真也 |
| 3 ウェブを活用した社会調査の新展開 | 東京大学 | 藤原 | 翔 |
| 4 デジタル時代における公共社会学の可能性——批判理論と『ビット・バイ・ビット』の創造的対話から | 東京大学 | 出口 | 剛司 |
| 5 視覚調査方法としての Instagram 調査の可能性 | 京都産業大学 | 金光 | 淳 |
| 6 転換期における社会調査と社会学 | 東京大学 | 盛山 | 和夫 |

テーマセッション（７）文化産業としてのアニメーション

6211 教室

司会：松永伸太郎（長野大学）

- | | | | |
|---|----------|-----|-----|
| 1 「アニメを語る」ということ——相互行為として見るアニメ語り | 東洋大学 | 佐々木 | 啓 |
| 2 キャラクターと消費者集団 | 東京造形大学 | 足立 | 加勇 |
| 3 「アイウエオの歌」による皇民化教育 | 専修大学 | 萱間 | 隆 |
| 4 第２次世界大戦期の軍事教育映画における専門知識の映像化について | 関西大学 | 雪村 | まゆみ |
| 5 独自化する中国のアニメ産業——The independence of Chinese Animation Industry | 早稲田大学大学院 | 董 | 鎧源 |
| 6 社会変換機とサブカルチャーメディアの成立——雑誌『ぽふ』を中心に | 東京大学大学院 | 金 | 泰龍 |
| 7 OVA という「発明」——「テレビ的なもの」の位置づけをめぐって | 明星大学 | 永田 | 大輔 |
| 8 アニメブームのメディア経験——『機動戦士ガンダム』をめぐる放送格差と雑誌読者 | 大東文化大学 | 近藤 | 和都 |

テーマセッション（８）現代社会における食と農

6212 教室

司会：立川雅司（名古屋大学）

- | | | |
|--|--|--|
| 1 都市のフードデザート問題——地方都市と大都市中心部を事例として | ○明治学院大学
茨城キリスト教大学
茨城大学
広島修道大学
愛知大学
拓殖大学
同志社女子大学
立教大学大学院 | 浅川 達人
岩間 信之
田中 耕市
佐々木 緑
駒木 伸比古
池田 真志
今井 貝子
水上 亮 |
| 2 アドホックな関与者による都市農業の維持——神奈川県 S 農園の事例から | | |
| 3 Homeless Garden Project は「食」と「農」が抱える矛盾をどう解決しているのか——カリフォルニア州サンタクルーズのオーガニックの事例から | 立教大学大学院 | 浅岡 みどり |
| 4 「栄養学」の成立と「食事実践法」の受容 | 立命館大学大学院 | 巽 美奈子 |
| 5 津波来襲水田地帯における都市農村交流の展開可能性——仙台市における農業法人 A を事例として | 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 | 飯坂 正弘 |
| 6 現代日本農村でのワークショップの可能性——国内外の知見を総合するアクション・リサーチから | 弘前大学 | 平井 太郎 |

テーマセッション（９）社会的包摂・社会的排除を考える社会学

6215 教室

司会：佐藤典子（千葉経済大学）

- | | | |
|---|-----------------------------|--------|
| 1 長期療養という状況にある高齢患者の社会的包摂にむけて | ちいき・ケア株式会社
ピュートソルフ練馬富士見台 | 綾田 美紗姫 |
| 2 排除と包摂のあいいで——L. ボルタンスキーにおける生むことと中絶の問題 | 神奈川工科大学 | 小田切 祐詞 |
| 3 プレカリティ指標をもちいた職業経歴の不安定度とその影響の分析 | 大阪市立大学 | 川野 英二 |
| 4 「ホームレス」の＜絶対的他者化＞からの脱却に関する一考察——『ビッグイシュー日本版』の実験を事例として | 京都大学大学院 | 八鍬 加容子 |
| 5 くわかる／わからないの二分法を超えて——摂食障害を生きる当事者たちの他者との関わりに焦点を当てて | 法政大学 | 宮下 阿子 |
| 6 自我の防衛機制とその自己破壊性に関する社会学的記述——「強迫性障害」及び「自傷行為」当事者の語りから | 大妻女子大学 共生社会文化研究所 | 澤田 唯人 |

テーマセッション（10）再帰的近代における宗教と社会・個人

9101 教室

司会：安達智史（近畿大学）

- | | | |
|--|----------------------|-------------------------|
| 1 共同体主義か、ムスリム・ミドルクラスの現れか？ フランスにおけるムスリム私立学校の発展に関する教育エスノグラフィ | フランス国立社会科学高等研究院 | 山本 繭子 |
| 2 現代シンガポールのリベラル派ムスリムによる言論活動・社会運動の意義と課題 | 法政大学大学院 | 市岡 卓 |
| 3 Malay Youth Constructive Fear of Inequality | University of Malaya | Rosila Mohd Bee Hussain |
| 4 Spirituality and Materiality among Human Remains——Reflection from repatriation activism of the Ainu and the Ryukyu | 大阪大学 CO デザインセンター | 池田 光穂 |
| 5 越境する「個人」の信仰の変容——海外在留邦人の日本語キリスト教会への入信過程を事例に | 一橋大学大学院 | 箕浦 よはな |

災害（2）

9102 教室

司会：加藤真義（福島大学）

- | | | | |
|--|--------|----|----|
| 1 震災復興における災害公営住宅の整備と課題（1）——東日本大震災後の災害公営住宅の建設を事例に | 岩手県立大学 | 吉野 | 英岐 |
| 2 震災復興における災害公営住宅の整備と課題（2）——宮城県（仙台市・石巻市・気仙沼市）の災害公営住宅の建設を事例に | 関西大学 | 内田 | 龍史 |
| 3 震災復興における災害公営住宅の整備と課題（3）——福島県内の原発避難者向け災害公営住宅の建設を事例に | 尚絅学院大学 | 高木 | 竜輔 |
| 4 パネル調査からみる震災後の生活復興感——「復興に関する大船渡市民の意識調査」の分析① | 山形大学 | 阿部 | 晃士 |
| 5 震災被災地における社会的孤立の要因とその帰結——「復興に関する大船渡市民の意識調査」の分析② | 立命館大学 | 金澤 | 悠介 |
| 6 大船渡市における地区ごとの復興プロセスと住民意識の関係——「復興に関する大船渡市民の意識調査」の分析③ | 信州大学 | 茅野 | 恒秀 |

文化・社会意識（2）

9103 教室

司会：田辺俊介（早稲田大学）

- | | | | |
|--|------------------|-----|-----|
| 1 社会運動を語る若者——台湾ひまわり運動・香港雨傘運動を事例に | 日本大学 | 陳 | 怡禎 |
| 2 学者・研究者への信頼のトレンド 1999-2012——科学観・高等教育観の計量社会学 | 京都大学 | 太郎丸 | 博 |
| 3 大卒者・高卒者間の相互不信と大学教育への支持——科学観・高等教育観の計量社会学 | 東京大学 | 大崎 | 裕子 |
| 4 科学観が変動するメカニズムとイデオロギー——科学観・高等教育観の計量社会学 | 株式会社原子力安全システム研究所 | 藤田 | 智博 |
| 5 ISSP 2010 に見る日本の Rationalist / Arcadian ディバイド——科学観・高等教育観の計量社会学 | 京都大学 | 山本 | 耕平 |
| 6 権威主義的性格研究の現代的意義——質的調査の検討を通して | 東洋大学大学院 | 菅原 | 想 |
| 7 矛盾の中の警察官——警察活動への理論的アプローチ | ミシガン大学 | 清水 | 麻友美 |

産業・労働・組織（2）

9104 教室

司会：阿部真大（甲南大学）

- | | | | |
|--|-------------|----|----|
| 1 イノベーション・エコシステムと地域・専門職労働市場——米国東部ボストン地区の事例 | 一橋大学 | 西野 | 史子 |
| 2 NPOなどで働く女性の人材育成——組織による取り組みに注目して | 横浜国立大学 | 鈴木 | 紀子 |
| 3 社会規範からみる日本的雇用 | 労働政策研究・研修機構 | 高橋 | 康二 |
| 4 戦後日本の産業社会学における問題構成の変遷——教科書を素材として | 東京大学大学院 | 中川 | 宗人 |
| 5 「就職氷河期世代」の「見えないボディブロー」——職場のスキル水準に注目して | 東京大学 | 本田 | 由紀 |

家族（2）

9105 教室

司会：村上あかね（桃山学院大学）

- | | | | |
|---|------------------------|----------|-----------|
| 1 卵子を選ぶ——卵子提供にみる選択原理と近代家族規範 | 静岡大学 | 白井 | 千晶 |
| 2 非典型時間帯労働とワーク・ファミリー・コンフリクト——共働き夫婦のペ
アワイズデータを用いた分析 | 中京大学 | 松田 | 茂樹 |
| 3 若者の交際は不活発になったのか——出生動向基本調査の集積データから推
移確率を推定する | ○東京工業大学 | 毛塚 | 和宏 |
| 4 未婚化の終わり——「分業」から「共働き」への転換 | 国立社会保障・人口問題研究所
帝京大学 | 中村
神山 | 真理子
英紀 |
| 5 現代日本における家族を持つことの意味——小学生のいる女性へのインタ
ビューから | 早稲田大学 | 品田 | 知美 |
| 6 転換期を介した女性雇用労働者の労働時間の個人内変動とその趨勢 | 東京大学大学院 | 池田 | 岳大 |
| 7 大都市圏女性ホワイトカラーの WLB における事業所内保育施設の可能性——
Clark の Work Family Border (WFB) 理論の枠組において | 株式会社三菱総合
研究所 | 川上 | 千佳 |
| 8 子育てひろばにおけるアドバイス——子育ての知識・経験の普遍性と固有性 | 一橋大学大学院 | 山岸 | 諒己 |

地域社会・地域問題（2）

9201 教室

司会：玉野和志（首都大学東京）

- | | | | |
|--|----------|----|-----|
| 1 ソーシャル・キャピタルは健康と幸福度を高めるか——川崎市地域包括ケア
システムの場合 | 東京大学 | 赤川 | 学 |
| 2 滞在理由の異なる外国人への親近感の違いとその規定要因——川崎市民意識・
実態調査のデータから | 東京大学大学院 | 園田 | 薫 |
| 3 低健康群における主観的健康の規定要因——川崎市地域包括ケアシステムの
場合 | 帝京大学 | 石島 | 健太郎 |
| 4 韓国の共助的支援による高齢者ケアの取り組み——大邱広域市の高齢者福祉
施設における質的調査を中心に | 北海道大学大学院 | 金 | 昌震 |
| 5 伴走型支援に引き継がれるコミュニティ形成の性質——静岡市の NPO 活動を
事例として | 静岡英和学院大学 | 志田 | 倫子 |
| 6 米国諸都市における都市内分権住民自治組織「ネイバーフッドカウンシル」
の社会的機能——日本の都市内分権住民自治組織「まちづくり協議会」との
照射を念頭に | 福山市立大学 | 前山 | 総一郎 |
| 7 地方創生の音楽社会学 | 神戸学院大学 | 金子 | 勇 |
| 8 沖縄の地域自治組織と基礎自治体の関係性——沖縄県名護市の区を事例とし
て | 大阪経済大学 | 難波 | 孝志 |

研究法・調査法（2）

9202 教室

司会：樋口耕一（立命館大学）

- | | | | |
|---|-----------|----|----|
| 1 社会的意味の計量分析：新自由主義とは何か | 首都大学東京 | 左古 | 輝人 |
| 2 社会的意味の計量分析：軍民両用技術に関わる共同研究ネットワークの可視化 | 東北学院大学 | 鈴木 | 努 |
| 3 社会的意味の計量分析：日本におけるアニメ・特撮ソングの歌詞の特徴と変遷 | 上越教育大学 | 小島 | 伸之 |
| 4 社会的意味の計量分析：1875～1979年における極度の〈食べなさすぎ〉を取り巻く社会諸制度の解明 | 首都大学東京大学院 | 河野 | 静香 |
| 5 社会的意味の計量分析：近代東京・都市公園に言及する新聞記事（1889～2019）のトピック変遷 | 東京大学大学院 | 前田 | 一步 |
| 6 社会的意味の計量分析：ウェーバー「暴力」論のテキストマイニング | 神戸大学大学院 | 橋本 | 直人 |
| 7 調査に抱かれているイメージと協力条件 | ○松山大学 | 小松 | 洋 |
| | 山形大学 | 阿部 | 晃士 |
| | 中央大学 | 篠木 | 幹子 |

日本社会学奨励賞受賞者招待講演（10月5日（土）15時00分～18時00分）

24号館2階 24202 教室

第二日（10月6日）
一般研究報告（3）（9時30分～12時30分）

福祉・保健・医療（3）

6106 教室

司会：浦野茂（三重県立看護大学）

- | | | | |
|---|-----------|----|-----|
| 1 発達障害児の母親の社会財としての専門機関群の実態 | 九州大学大学院 | 山下 | 亜紀子 |
| 2 「がん告知時代」のカミングアウト問題の研究——早期診断された乳がん経験者の事例をもとに | 京都大学大学院 | 阪本 | 浩太 |
| 3 アメリカと日本における障害者雇用をめぐる運動の研究——合理的配慮の成立条件から障害者雇用の歴史的過程を考察する | ○津田塾大学大学院 | 濱松 | 若葉 |
| | 津田塾大学 | 柴田 | 邦臣 |
| 4 「発達障害」という生態的ニッチの構成——日本における知的障害教育論の視点から | 株式会社リクルート | 篠宮 | 紗和子 |
| 5 精神医療としての音楽療法——専門性を支える論理を跡付ける | ○法政大学 | 河村 | 裕樹 |
| | 慶應義塾大学大学院 | 吉川 | 侑輝 |
| 6 精神障害者「社会復帰」論争に関する考察——精神障害者の「自立」と「社会復帰」への問い | 東海学園大学 | 早野 | 禎二 |
| 7 患者を中心とする研究参画の制度的基盤に関する比較——アメリカ、EU、日本の希少性・難治性疾患政策の事例分析から | 東京大学 | 渡部 | 沙織 |
| 8 社会モデルとしての言語学習障害——言語学習障害を言語的マイノリティとして捉え直す | ○津田塾大学大学院 | 貝原 | 千馨枝 |
| | 津田塾大学 | 柴田 | 邦臣 |

性・ジェンダー（4）（日英混成部会）

6110 教室

司会：新ヶ江章友（大阪市立大学）

ファシリテーター：高丸理香（鹿児島大学）

- | | | | |
|---|-----------------|--------|---------|
| 1 セクシュアルマイノリティと貧困についての研究序説 | 早稲田大学 | 志田 | 哲之 |
| 2 多様な性的マイノリティの連帯可能性——福岡における市民活動の事例から | 九州大学大学院 | 井上 | 智史 |
| 3 Cultural politics of queer migration | 神戸大学 | HUGHES | Phillip |
| 4 曖昧な性別違和をめぐるカテゴリーの形成——「Xジェンダー」の運用に着目して | 東京大学大学院 | 武内 | 今日子 |
| 5 社会的承認と経済・健康・監視リスク——女装者および女装者愛好男性の語りを事例として | 東洋大学 | 石井 | 由香理 |
| 6 性的指向と性自認のあり方を社会調査でいかに捉えるか——大阪市民調査に向けた準備調査における項目の検討と本調査の結果 | ○国立社会保障・人口問題研究所 | 釜野 | さおり |
| | ワシントン大学 | 平森 | 大規 |
| 7 トランスジェンダーの割合をどう測るか——「大阪市民調査」と「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する意識調査」から | 金沢大学 | 岩本 | 健良 |
| 8 日本における性的指向・性自認に基づく社会経済的地位の不平等——大阪市民調査の分析結果から | ワシントン大学 | 平森 | 大規 |

環境

6112 教室

司会：湯浅陽一（関東学院大学）

- | | | | |
|--|-------------------|-----|----|
| 1 なぜヤマビルを手で殺すのか——身体感覚と駆除の倫理 | 成蹊大学 | 渡邊 | 悟史 |
| 2 東電改革・1F 問題委員会の分析——福島事故後のリスク転換の展開 | 東京大学 | 定松 | 淳 |
| 3 「アンチ・コモンズの悲劇」と里山保全 | 東北大学 | 長谷川 | 公一 |
| 4 「地元合意」はどうあるべきか——浜岡原発再稼働と県民投票をめぐるミニパブリクス型熟議実験 | ○静岡大学 | 辰巳 | 智行 |
| | 静岡大学 | 中澤 | 高師 |
| 5 米軍基地における水質汚染物質の発見および対策過程——ドイツ・ラインラント＝プファルツ州における PFOS 汚染とその対策を事例に | 日本学術振興会 | 森 | 啓輔 |
| 6 受動喫煙と肺がん患者——彼ら彼女らはいかなる影響を被っているか | 立教大学大学院 | 齋藤 | 公子 |
| 7 地域課題解決に向けた自然資源の共同利用——奄美市打田原集落を事例として | 北星学園大学 | 寺林 | 暁良 |
| | 日本学術振興会
(東京大学) | 金城 | 達也 |

民族・エスニシティ（4）（日英混成部会）

6115 教室

司会：鈴木江里子（国士舘大学）

ファシリテーター：眞住優助（金沢大学）

- | | | | |
|--|---------------|-----|-----|
| 1 日本で結婚した非正規滞在者への在留特別許可——「婚姻が安定かつ成熟していること」はいかに評価されるのか | 日本学術振興会 | 加藤 | 丈太郎 |
| 2 帰還移民のソーシャル・アントレプレナーシップの再概念化——香港で働いたインドネシア人家事労働者の事例から | 京都産業大学 | 澤井 | 志保 |
| 3 経済的先進諸国の非大都市圏における移民労働者の増加要因の分析——食品産業による移民の雇用過程に関する国際比較をもとに | 金沢大学 | 眞住 | 優助 |
| 4 在外日本企業における「日本人性」——現地採用者の就労をめぐる力学 | 同志社大学 | 松谷 | 実のり |
| 5 An Ethnography of International Student Service Workers—— | 一橋大学大学院 | 朴 | 知遠 |
| 6 ベトナムの経済成長に向けた人的資源としての技能実習生——ホーチミンにおける送り出し機関の経営戦略 | ○ノートルダム清心女子大学 | 二階堂 | 裕子 |
| | 岡山大学大学院 | 駄田井 | 久 |
| 7 日本の技能実習経験に対するベトナム人若年層の「希望」とその「評価」 | ○岡山大学大学院 | 駄田井 | 久 |
| | ノートルダム清心女子大学 | 二階堂 | 裕子 |
| 8 東南アジア・サッカーリーグにおけるアフリカ出身選手の適応戦略 | 大谷大学 | 阿部 | 利洋 |

社会病理・逸脱

6203 教室

司会：伊藤智樹（富山大学）

- | | | | |
|--|---------|----|-----|
| 1 在院少年と法務教官の関係を中心とした一考察——少年院のアンケート調査をつうじて | 佛教大学 | 作田 | 誠一郎 |
| 2 大学アメリカンフットボール部事件の分析 | 獨協大学 | 前島 | 賢土 |
| 3 変容する医師——在宅医の聞き取り調査から | 上智大学大学院 | 井口 | 真紀子 |
| 4 非行からの「立ち直り」論の再考——被害経験から捉える少年院出院者の語り | 岡山県立大学 | 都島 | 梨紗 |
| 5 東アジアにおける「援助交際論」の再検討——年少者の性的主体性に着目して | 筑波大学大学院 | 周 | 篠 |
| 6 児童虐待はどのように裁かれているのか？——刑事被告事件のジェンダー分析から見えること | ○佛教大学 | 大貫 | 挙学 |
| | 九州大学 | 藤田 | 智子 |
| 7 福島における分断修復学の創成 | 中京大学 | 成 | 元哲 |
| 8 自閉症児子育ての困難とは何か——イアン・ハッキングの理解と熊谷晋一郎の指摘からの考察 | 松山大学大学院 | 渡邊 | 文春 |

国際・エリアスタディ

6205 教室

司会：大橋史恵（お茶の水女子大学）

- | | | | |
|---|---------|---------------|-------|
| 1 チェンマイ市のコミュニティ施策と地域共同管理 | ○福島大学 | 牧田 | 実 |
| 2 現代中国における「国学ブーム」という現象について | 宇都宮大学 | KAENWANOTTHAM | MALEE |
| 3 「国民文化」のグローバル化——上海の寿司店における「日本文化」言説の再構成 | 法政大学 | 金 | 世勇 |
| 4 北アイルランドにおける「下からの平和」の方法——「アイランド・パンフレット」に見るコミュニティ・グループとコミュニティ・メディアの連携 | 名古屋芸術大学 | 王 | 昊凡 |
| 5 宗教の境界と身体実践——マレーシアにおけるヨガの実践を事例として | 愛知県立大学 | 福岡 | 千珠 |
| 6 中国帰国者3世はどのようにその生を経験するか——家族史と移民研究視点からの分析試論 | 上智大学大学院 | 栗原 | 美紀 |
| | 一橋大学大学院 | 山崎 | 哲 |

権力・政治

6207 教室

司会：西田亮介（立命館大学）

- | | | | |
|--|----------|----|----|
| 1 ネットの影響によって生み出される〈極性化〉現象についての仮説の整理——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究（1） | 関西学院大学 | 鈴木 | 謙介 |
| 2 憲法改正・政権支持等に関するネット利用の〈極性化〉効果の検証——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究（2） | 大阪大学 | 辻 | 大介 |
| 3 自由記述から見る、だれがなぜ改憲に賛成・反対しているのか——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究（3） | 立命館大学 | 樋口 | 耕一 |
| 4 政党支持の安定性と情報行動——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究（4） | 早稲田大学 | 田辺 | 俊介 |
| 5 ナショナリズムの類型の規定要因としての不満——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究（5） | 大阪大学大学院 | 齋藤 | 僚介 |
| 6 若者は保守的なのか？——政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究（6） | 東京学芸大学 | 浅野 | 智彦 |
| 7 原発の完全撤退と継続に関する、伊・独・日の政策比較——伊・独・日の気質と第二次世界大戦の終戦処理から、原発政策を比較する | 中国瀋陽師範学院 | 宮内 | 紀靖 |

階級・階層・移動（3）

6207 教室

司会：吉岡洋介（千葉大学）

- | | | | |
|---|---------|-----|----|
| 1 東大社研パネル調査と健康格差——東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（1） | 東京大学 | 石田 | 浩 |
| 2 親の離婚が教育達成に与える影響とその出身階層による変異——東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（2） | 広島大学 | 白川 | 俊之 |
| 3 若者の親との再同居の規定要因——東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（3） | 武蔵大学大学院 | 俣野 | 美咲 |
| 4 世代内移動と主観的セカンド・チャンス——東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（4） | 東京大学 | 石田 | 賢示 |
| 5 自営就業と非金銭的報酬——東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（5） | 東京大学 | 仲 | 修平 |
| 6 介護の状況と影響——東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（6） | 東京大学 | 大久保 | 将貴 |

テーマセッション（11）技術革新再考——社会学の理論的冒険

6210 教室

司会：飯島祐介（東海大学）

- | | | | |
|---|---------|----|-----|
| 1 意味領域の交錯と技術——シュッツの多元的現実論の応用 | 東京大学大学院 | 高艸 | 賢 |
| 2 20 世紀技術史の社会的再検討——商品管理システムの成立史から見た消費
社会論への応答可能性 | 東京大学大学院 | 林 | 凌 |
| 3 「技術革新」時代の科学的労働——芝田進午の社会理論から | 東京大学大学院 | 馬渡 | 玲欧 |
| 4 辞書（事典）の“イノベーション” Wikipedia の権威論的意味 | 元武蔵大学 | 藤田 | 哲司 |
| 5 新技術に対する不信の解消の構造 ——「農と食」と「医療」の領域における
ゲノム編集技術の比較を通して | 国際基督教大学 | 山口 | 富子 |
| 6 テクノ進歩派の正当化論とは何か？——モラル・エンハンスメントを中心に | 首都大学東京 | 堀内 | 進之介 |
| 7 人工知能の社会学——自動運転を題材にした社会秩序についての考察 | 富山大学 | 佐藤 | 裕 |

テーマセッション（12）創造性・芸術性と労働をめぐる社会学

6211 教室

司会：中根多恵（愛知県立芸術大学）

- | | | | |
|--|-----------|----|-----|
| 1 芸術を学んだ学生たちはいかにして職業芸術家になるのか——海外在住の若
手芸術家たちへの聞き取りから | 上智大学 | 相澤 | 真一 |
| 2 文化・芸術業界における仕事——遊びと労働の両立可能性の探求 | 立教大学 | 高橋 | かおり |
| 3 夢追いバンドマンにとって音楽活動は「仕事」なのか？——労働／余暇の二
元論的思考を超えて | 名古屋大学大学院 | 野村 | 駿 |
| 4 「創造的な仕事」への折りあいとキャリア形成——ベテランアニメーターへの
インタビュー調査から | 長野大学 | 松永 | 伸太郎 |
| 5 独立自営の建築家における創造性の持つ両義的な意味をめぐって | 立命館大学 | 松村 | 淳 |
| 6 抑圧されたパフォーマーの労働と創造性——アイドルを事例に | 慶應義塾大学大学院 | 上岡 | 磨奈 |
| 7 アートプロジェクトにおける不安定労働 | 共立女子大学 | 吉澤 | 弥生 |

テーマセッション（13）＜関係＞と＜プロセス＞の社会学の可能性

6212 教室

司会：川野英二（大阪市立大学）

- | | | | |
|---|-----------------|----|-----|
| 1 社会運動理論と関係社会学 | 同志社大学 | 鶴飼 | 孝造 |
| 2 関係社会学と複雑性理論 | 早稲田大学 | 桜井 | 洋 |
| 3 1940-70 年ニューヨーク・アート業界のネットワーク分析 | 大阪市立大学 | 笹島 | 秀晃 |
| 4 美術界の社会的分析——2018 年東京ウェブ調査の多重対応分析 | 慶應義塾大学 | 磯 | 直樹 |
| 5 対応分析（CA）は関係性をどのように表現するのか——CA の原理から、応用
としての幾何学データ解析（GDA）まで | 作新学院大学 | 藤本 | 一男 |
| 6 社会的ネットワークと一般的信頼との関連——ネットワークの密度・中心性・
類似性に着目して | ○東京女子大学 | 福島 | 慎太郎 |
| | 日本女子大学 | 石黒 | 格 |
| 7 ボランティア行為者の他者に対する関係性はどのように形成されるのか？——
終末期の医療に関わるボランティア行為者の関係性創出プロセスに着目して | 九州看護福祉大学
大学院 | 竹中 | 健 |

災害（3）

9102 教室

司会：浦野正樹（早稲田大学）

- | | | | |
|--|-----------|----|----|
| 1 「生きる」を支えるための避難者支援体制の模索——茨城県を中心に | 茨城大学 | 原口 | 弥生 |
| 2 ブリコラージュ概念の実践的意義の検討 ——被災地で立ち上げられた地域食堂を事例として | 大阪大学 | 王 | 文潔 |
| 3 政府への評価と社会階層の関連 ——東日本大震災後の社会不公平感と原発態度に関する分析 | 立教大学 | 村瀬 | 洋一 |
| 4 東日本大震災後に生じた地域文化を残す活動とその特徴——浪江町民の活動を事例に | 福島大学 | 深谷 | 直弘 |
| 5 原発被災地で暮らし直す論理——福島県南相馬市 X 集落を事例に | 東北学院大学大学院 | 庄司 | 貴俊 |
| 6 大阪北部地震における地域コミュニティの災害対応 ——女性防災リーダーの活動状況に着目して | 早稲田大学 | 浅野 | 幸子 |

文化・社会意識（3）

9103 教室

司会：荻野昌弘（関西学院大学）

- | | | | |
|---|-------------------|----|----|
| 1 防衛術としての「片づけ」——居住空間の非電子的な自己管理への誘導方法の分析 | 一橋大学大学院 | 早川 | 黎 |
| 2 40 年間の過剰債務者救済運動を社会的文脈に位置づける——当事者と専門職の連携による社会運動 | 金城学院大学 | 大山 | 小夜 |
| 3 東京を飼いならす——雑誌『東京ウォーカー』『東京カレンダー』の言説実践 | 東京大学 | 小川 | 豊武 |
| 4 ジェンダー化と向自己性が垣間見える日本——嗜好品と豊かさや幸福に関する社会学研究（1） | 統計数理研究所 | 今田 | 高俊 |
| 5 嗜好品摂取スタイルの潜在クラスと社会階層の関連——嗜好品と豊かさや幸福に関する社会学研究（2） | 公益財団法人たばこ総合研究センター | 橋爪 | 裕人 |
| 6 不要なものを必要とする社会——嗜好品と豊かさや幸福に関する社会学研究（3） | 東京女子大学 | 赤堀 | 三郎 |

産業・労働・組織（3）

9104 教室

司会：西野史子（一橋大学）

- | | | | |
|--|-----------|-----|-----|
| 1 仕事満足度に対する産業の効果——SSM2015 データを用いた計量アプローチ | 同志社大学大学院 | 稲元 | 洋輔 |
| 2 ダイバーシティ / ワークプレイス研究の論点整理——障害と共に働くこと | ○新潟青陵大学 | 海老田 | 大五朗 |
| | 北星学園大学 | 水川 | 喜文 |
| | 山口大学 | 秋谷 | 直矩 |
| | 北星学園大学 | 柳町 | 智治 |
| 3 企業の雇用調整と雇用形態の不平等——企業の不平等レジームに注目して | 慶應義塾大学大学院 | 田上 | 皓大 |
| 4 作業フローにおける「製品の身分」の可視化 ——就労支援の相互行為分析（1） | 千葉大学大学院 | 三部 | 光太郎 |
| 5 ことばを介さないニーズの提示と援助の提供——就労支援の相互行為分析（2） | 玉川大学 | 黒嶋 | 智美 |
| 6 掃除の仕方を教えること／学ぶこと ——就労支援の相互行為分析（3） | 立教大学 | 須永 | 将史 |

都市

9105 教室

司会：若林幹夫（早稲田大学）

- | | | | |
|---|---------------------------|---------------|----------------|
| 1 近代都市貧困地域における公衆衛生と産業政策のコンフリクト——ヨーク市衛生局調査とロウントリ貧困調査 | 早稲田大学 | 武田 | 尚子 |
| 2 都市自営業者層は没落するのか——東京スカイツリーをめぐる地域商店（街）の対応から | 成蹊大学 | 金 | 善美 |
| 3 朝鮮学校における「よそ者」研究——朝鮮学校を「訪れる」人々の事例から | 一橋大学大学院 | 趙 | 少曦 |
| 4 都市デザイン政策は生き残ったのか？——横浜市・創造都市に関する行政官の政策継承プロセスに着目して | 東京大学大学院 | 青木 | 淳弘 |
| 5 名古屋都市圏の「見えない格差」とコミュニティ・ウェルビーイング——南医療生協と地域コミュニティ：名古屋市南区の名南ブロックを事例にして | ○名古屋大学
椋山女学園大学
中京大学 | 河村
木田
成 | 則行
勇輔
元哲 |
| 6 名古屋都市圏の「見えない格差」とコミュニティ・ウェルビーイング（2）——コミュニティの特性は“地縁”の形成に影響を与えるか | ○椋山女学園大学
名古屋大学
中京大学 | 木田
河村
成 | 勇輔
則行
元哲 |
| 7 「都市化」の概念分析——1950 年代から 1970 年代日本の都市社会学を事例として | 東京大学大学院 | 宮地 | 俊介 |
| 8 都市計画と都市形成——明治期東京における移転の論理から | 東京大学大学院 | 中川 | 雄大 |

地域社会・地域問題（3）

9201 教室

司会：笠井賢紀（慶応義塾大学）

- | | | | |
|--|----------|----|-----|
| 1 小規模非合併農協の取組にみられる移住促進要因——大分県中津市下郷地区における地域生活文化圏の形成と展開（1） | ○福岡県立大学 | 堤 | 圭史郎 |
| | 長野大学 | 相川 | 陽一 |
| 2 小規模非合併農協による地域自治の可能性——大分県中津市下郷地区における地域生活文化圏の形成と展開（2） | ○長野大学 | 相川 | 陽一 |
| | 福岡県立大学 | 堤 | 圭史郎 |
| 3 過疎山村に住む高齢女性のパーソナル・ネットワークとソーシャル・サポート——1997-98 年の岡山県高梁市の追跡調査 | 安田女子大学 | 野邊 | 政雄 |
| 4 日本と南洋群島の互助慣行の比較——パラオとポンペイを中心に | 流通経済大学 | 恩田 | 守雄 |
| 5 開拓集落のコミュニティ——名蔵・嵩田共同墓地めぐる生活環境史から | 日本学術振興会 | 廣本 | 由香 |
| 6 「他出子」本人の意識調査からみる集落維持の可能性と課題——浜松市天竜区佐久間町を事例として | 静岡文化芸術大学 | 船戸 | 修一 |
| 7 社会学的観点からみるオルタナティブな観光——FIDR モデルによる CBT の機能と効果、意義について | 九州大学大学院 | 鈴木 | 瞳 |
| 8 新生活運動と「冠婚葬祭の改善」——山形県における展開 | 大正大学大学院 | 大場 | あや |

国際交流委員会企画テーマセッション "New Migration Trends in East and Southeast Asia"

6215 教室

Chair Takaya Sachi (Osaka University) Piya Pongsapitaksanti (Kyoto Sangyo University)

Opening remarks by Ochiai Emiko, the head of the JSS International Liaison Committee

Discussants Lan Pei-Chia (National Taiwan University) Ogaya Chiho (Ferris University)

- | | | | |
|---|--|-------|----------------|
| 1 Japanese Migration Policy Reform and Complexity of Channels: From Control Orientation to Rights Based Laissez-Faire | Kyoto University | Asato | Wako |
| 2 Transforming Exclusionary Migration Regime? New Economic Migration Policy in Taiwan | National Taiwan University | | Tseng Yen-Fen |
| 3 Sending more or sending better care workers abroad? A dilemma of Vietnam labour exporting strategy | Institute for Social Development Studies | | Khuat Thu Hong |
| 4 Environmental Migration, Human Security and Climate Refugees in Philippine Cities | Ateneo de Manila University | Emma | Porio |

ポスターセッション (10月6日(日) 10時30分～13時00分)

7号館 1階 7102・7103 教室

- | | | | |
|---|-------------------|----|-----|
| 1 大規模災害における自治体の情報通信利活用に関する調査研究——熊本地震・鳥取県中部地震・西日本豪雨災害・北海道胆振東部地震を事例として | 大妻女子大学 | 干川 | 剛史 |
| 2 Historical Condition of the Birth of the Disciplinary Device for Colorblindness——In the Case of Stereoscopic Color Vision Training Device | 早稲田大学総合人文科学研究センター | 馬場 | 靖人 |
| 3 科学技術コミュニケーションに求められているコミュニケーションスキルとは？——2000年代の「コミュニケーション能力」概念との関連から | 北海道大学 高等教育推進機構 | 種村 | 剛 |
| 4 「発話困難な重度身体障がい者」の文章作成における実態——新たな介助概念への一考察 | 独立行政法人日本学術振興会 | 天島 | 大輔 |
| 5 日本の世論調査における妥当性と信頼性に関する研究 | 関西学院大学大学院 | 大山 | 康平 |
| 6 半導体戦争時代のマイコンと教養——昭和50年代のコンピュータ総合雑誌を事例として | 追手門学院大学 | 前田 | 至剛 |
| 7 働く母親と階層間格差——仕事意欲と家事分担に関する質的研究 | ○明治大学 | 藤田 | 結子 |
| | 東京大学 | 額賀 | 美紗子 |
| 8 「クロスロード」の社会学的分析枠組みの構築 | 九州大学 | 三隅 | 一人 |
| 9 更新し続ける現代の食環境 | 立正大学大学院 | 真間 | 大地 |
| 10 地位と感情表出——国会会議録と感情辞書を用いた分析 | 関西学院大学 | 中野 | 康人 |
| 11 アジア・太平洋戦争時の庶民の意識——戦中日記のテキストマイニング | 関西学院大学 | 渡邊 | 勉 |
| 12 人文社会科学データの共有に向けての取り組みと課題 | ○国立情報学研究所 | 朝岡 | 誠 |
| | 日本学術振興会 | 前田 | 幸男 |
| | 日本学術振興会 | 伊藤 | 伸介 |
| | 国立情報学研究所 | 船守 | 美穂 |
| | 国立情報学研究所 | 林 | 正治 |
| | 国立情報学研究所 | 山地 | 一禎 |
| 13 婚姻状態と女性の健康——日本人女性と米国日系人女性の比較から | 学習院大学 | 玉置 | えみ |
| 14 女性の早期離職に関する考察——短大卒者・大卒者を比較して | 淑徳短期大学 | 中村 | 三緒子 |
| 15 農業近代化の経験と語り——根釧パイロットファームの事例 | 東北大学 | 徳川 | 直人 |
| 16 首都圏の市民社会組織の「ビジネスライク化」に関する基礎的検討——2006年・2019年の首都圏市民団体調査データの分析を通して | 東京大学大学院 | 仁平 | 典宏 |

日本社会学会長講演 (10月6日(日) 13時30分～14時00分)

24号館2階 24202教室

シンポジウム (10月6日(日) 14時10分～17時40分)

シンポジウム(1) 女性活躍時代のシャドウワーク

23201教室

討論者：落合恵美子(京都大学) 司会：高畑幸(静岡県立大学)、駒川智子(北海道大学)

コーディネーター：元治恵子(明星大学) 研究活動委員会担当委員：高畑幸、駒川智子、元治恵子

- | | | | | |
|---|---|--------|----|-----|
| 1 | 外国人ケア労働者導入が労働市場に及ぼす影響と社会保障 | 千葉大学 | 大石 | 亜希子 |
| 2 | 家事の外部化と労働の商品化——特区の「外国人」「女性」家事労働者雇用から考える | 恵泉女子大学 | 定松 | 文 |
| 3 | ジェンダー＝階級構造と家事労働 | 早稲田大学 | 橋本 | 健二 |

シンポジウム(2) AIと社会学の未来——人工知能は〈社会的なるもの〉をどう変え、社会学の方法をどう刷新するのか？

24202教室

討論者：白山晋(東京大学)、大黒岳彦(明治大学)

司会：榎田美雄(神戸市看護大学)、出口剛司(東京大学)、柴田悠(京都大学)

研究活動委員会担当委員：榎田美雄、出口剛司、柴田悠

- | | | | | |
|---|--|-------|----|----|
| 1 | AIが雇用・格差・経済成長に与える影響 | 駒澤大学 | 井上 | 智洋 |
| 2 | AIは社会学理論の構築に資するか？ | 東北大学 | 瀧川 | 裕貴 |
| 3 | 『AIは〈社会的なるもの〉を変えるか？』という問いによって、社会学者は何を問おうとしているのか？ | 早稲田大学 | 若林 | 幹夫 |

シンポジウム(3) 恋愛

23101教室

討論者：今田高俊(統計数理研究所) 司会：小林盾(成蹊大学)、川端健嗣(東京女子大学)

研究活動委員会担当委員：小林盾

- | | | | | |
|---|--------------|--------|----|-----|
| 1 | 計量研究の視点から | 東京大学 | 三輪 | 哲 |
| 2 | 歴史研究の視点から | 日本女子大学 | 木村 | 絵里子 |
| 3 | 家族研究の視点から | 中央大学 | 山田 | 昌弘 |
| 4 | フィールド調査の視点から | 文筆家 | 鈴木 | 涼美 |